

流域の人々と歩む月刊誌

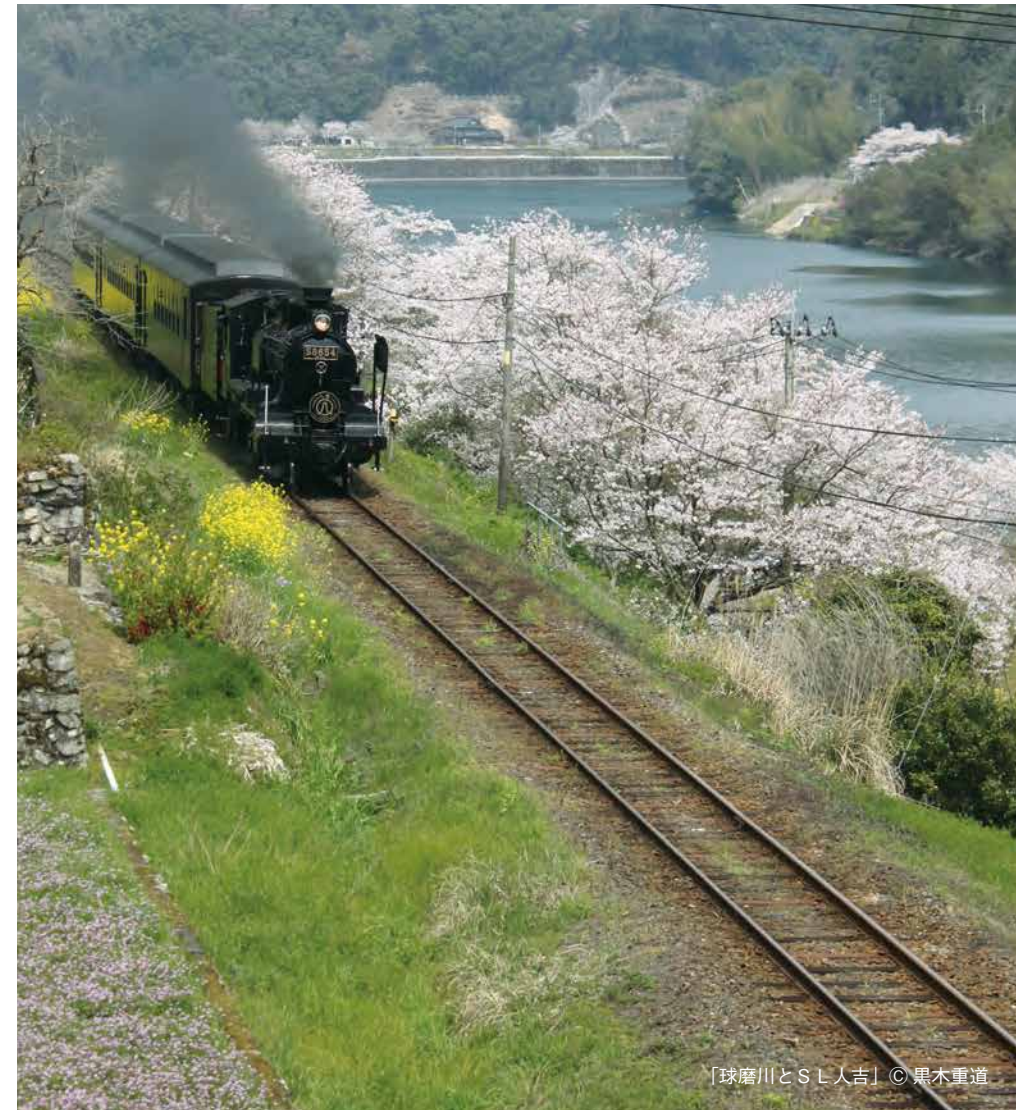
くまがわ春秋

2016

4

創刊号

連載企画 **球磨川の駅・ものがたり**



「球磨川とSL人吉」©黒木重道

広告掲載のご案内

表2・表3・表4の広告、及び
本文内の広告を募集いたします。
お問い合わせは下記までどうぞ。

〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3
人吉中央出版社内「くまがわ春秋」編集部
TEL0966-23-2580 FAX0966-22-7601
office@hitoyoshi.co.jp

シリーズ ほいくのなかで描いた絵①

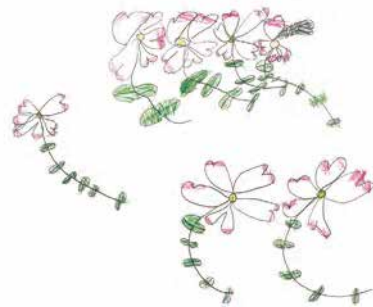


社会福祉法人 福島保育園

球磨郡錦町一武 745-4

定員：90名 電話番号：0966-38-0260

開園時間：午前7時00分～午後7時00分
(平日・土曜日、延長保育含む)



ツクシイバラ

描いた人 古川 小晴 (錦町6歳)

子ども達が走りまわれる広い運動場、夏には大きなプール、そして雨の日には体育館でのびのびと遊ぶことができます。また地域とのふれあいを大切に活動、延長保育、一時保育等を実施し、地域の子育て拠点として保育のニーズに応えています。

雑誌 81779-04



4910817790468
00500

月刊くまがわ春秋 創刊号 2016年4月9日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3

TEL0966-23-2580 FAX0966-22-7601
http://www.hitoyoshi.co.jp/ office@hitoyoshi.co.jp

定価 540円

本体 500円

今月の詩

人吉球磨児童生徒文詩集「やまざり」から

第33号 (2007年=平成19年=3月発行) 選・作文の会

「なんでダメなの？」
「私の意見も聞いてよ。」
心の中で何度も叫んだ
親には言っていない
私の本心……

「どうせ分かってくれないから。」

「受験なんて面倒臭い」

私は進路について考えるのを止めた
自分のことなのに考えるのを止めた……

周りのみんなは次々に進路を決めた
夢に向かって歩き出していた
私一人だけ取り残された……

そんな気がしてあせった
「このままではダメだ。」

もう一度進路について考えた
親と本気で向き合う

私は一つの答えを出す
けれどまだ迷う私がいる
すつきりしない私の心
「これでいいの？」

「本当に自分の進むべき道なのだろうか？」
そう聞かれると分からない

でも自分で選んだ道だ

後悔はしない

自分を信じる

私は

たくさんの中から選んだ

たった一つの道を

歩き始める

【評】進路に対する焦りや迷いは、だれでも通る道とは言いがた、十五歳での選択は厳しいものだ。「後悔はしない」と自分に言い聞かせ、その道に向かって努力する筆者の姿が目につく。

表紙説明
「球磨川とSL人吉」



球磨川流域の観光名物の一つと言えば「SL人吉」。4月1日の本格運行を前に、桜・菜の花が咲くなか、春の光を浴びながら試運転のSL人吉は球磨川沿いを走り抜けた。(3月29日、葦北郡芦北町^{えびらせ}簸瀬にて。編集部撮影)

球磨川の駅・ものがたり①「八代駅」	／6
なつかし昭和の写真館①／12	
球磨川大好き！「源流水リレー」①	／14
限界集落便り①「シェアハウス篇」	／22
人吉観光案内人物語「定吉が行く」①	／28
くまがわすじの考古地誌①／34	
小山勝清生誕二二〇年特集／57	
復刻掲載「字図で見る球磨の地名」	／90

巻頭言「ゆうば川」前田一洋／2	
今月の言葉『文読む月日』(北御門二郎訳)／3	
柳人があじわう漱石俳句① いわさぎ楊子／3	
海の写真館① 新井章吾／5	
記憶の落ち穂①「母の里天草に」坂本福治／21	
オキノの視点①「子どもと事故」興野康也／25	
民話発掘①「川ん太郎の手」緒方雅子／32	
「郡築干拓の農業」磯田毅／38	
林業の世界①「事始め」亀田英雄／40	
鶴鶴短歌会「三月詠草」／41	
リレーエッセイ「伏流水」	
・「母親たちの春」椎葉直美／42	
・「桜色の春を想いて」牛嶋将克／45	

お寺と戦争① 山本隆英／48	
ひろしの「げっかん・ぎひょう」／50	
外来語から学ぶ英単語①藤原 宏／51	
「罰帳」に見る人吉藩の犯罪① 尾方保之／52	
マイ・ビュ―「子どもを真ん中にして」内田順子／63	
「極私的・うどんの話」上村和代／65	
井上微笑と近代俳句 永田満徳／68	
鉄筆・骨筆——これらは死語か？ 鶴上寛治／70	
里山の恵みをいただく① 森屋浩美／71	
美味しい大根ができる畑 上村雄一／72	
くまがわ春秋歌壇「いもご短歌会」／75	
不知火海の自然・生活①「不知火海と私」つる詳子／76	
球磨川私論①「追想」元村順宣／79	
方言を味わう① 前田一洋／82	
昭和二十三年元旦に父が記した遺稿①片岡和紘／86	
東京オリンピック①「ピクトグラム」荻田吉富／88	

「球磨川」と聞けば、まことに猛々しく男性的な印象を受ける。九州脊梁山地に水源を発し、さらに球磨川下りの四十八瀬にも象徴される雄々しさがあるからだ。ところが同じ川ながら「ゆうば川」という至って優雅な名称も持つている。漢字で表記すれば「木綿葉川」であり、さらに美称よろしく「夕葉川」とも記される。▼殊にゆうばの方は、「夕葉町」とか「夕葉橋」などと八代方面の方々に愛されているようだ。その語源は、流れて来た麻の葉を見て、上流にも人が住んでいることが分かったから、とされている。この伝承を平安後期の藤原定隆は、〈夏来れば流るる麻の木綿川誰水上に裸しつらむ〉と詠んでいる。▼ことほど左様に流れる水は少しも変わらないのであるが、その見方や感じ方では表現も違ってきてまことに面白い。そうした感性を幅広く捉え、そして後世に残していこうと、従来十八年間続けてきた『週刊ひとよし』をさらに発展させ、『月刊くまがわ春秋』を創刊することにした。▼清流日本一の栄誉に輝く「川辺川」を筆頭に、大小四十五もの支流を持ち、幹線の流路延長114 kmに及ぶ球磨川は不知火海も含めその流域の至宝である。そしてこの地域は古代から強い絆で結ばれ、盆地・山地・平野部・海・島が持つ独特の文化を育ててきた。そして、これらの貴重な要素を基盤に多くの人々が活躍していこうとする。そのプロセスや成果の記録を残す上からも『月刊くまがわ春秋』はお役に立ちたい。

(前田一洋)

今月の二言『文読む月日』

(レフ・トルストイ 編著
北御門二郎 訳) より

賢者はそれが自分にとって有利だから愛するのではなく、愛そのもののなかに幸福を見いだすから愛するのである。(パスカル)



今年は漱石没後100年、来熊120周年の年にあたる。29歳のとき熊本第五高等学校に赴任してから在熊4年3カ月の間に1000句以上の俳句を詠んだ。生涯では2500余句にもなる。そのなかから選んだ句を柳人としてあじわうことにする。

董程な小さき人に生れたし

(漱石30歳)

漱石俳句の中では一番有名な句かもしれない。「董程な」の「な」は「の」のまがいではない。助詞のつかいかたが今より自由だ。「の」でつなぐと「小さき人」をさすだけにすぎないが、「な」にすることで小さな切れが生じ、董のイメージが広がる。

漱石は29歳のとき上熊本駅に降り立った。漱石の年齢と明治の年号はおなじ。つまり明治29年4月13日のこと。上熊本駅から京町台に上って第五高等学校(現在の熊大)方面へ下って行った。

京町台に上る途中の京陵中学校正門わきに句碑が建てられている。それには、「すみれ程の小さき人に生れたし 漱石」の表記がある。漱石は後年、書にしたためるときには句をやさしいイメージにしたようだ。

なで肩のひとと草食恐竜展 楊子

【いわさき楊子 川柳誌「裸木」編集人、熊本市】

柳人があじわう 漱石俳句 ①

選と鑑賞と川柳／いわさき楊子





マボヤは寒海域に多い動物ですが、八代海にも生息しています。ガンガゼは暖海域のウニで、温暖化に伴って八代海で増えつつあり、海藻を食害して藻場を衰退させています。

【あらい・しょうご 海藻研究所 所長、福岡県】

水俣市袋地先の「マボヤ」と「ガンガゼ」

先月のおもな出来事 2016年3月

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
		青井稲荷神社初午大祭	おひなウンスンカルタマスターズ大会	東日本大震災から五年		球磨川の稚アユ放流始まる			相良三十三観音健康ウォーク・山江淡島神社人形供養祭 相良村長選で徳田正臣氏が3選					八代市がLINEとTwitterのアカウントを取得 球磨川下り川開き祭・球磨村長選で柳詰正治氏再選

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
			人吉球磨さわやか大学修了式	大畑駅「さくら祭り」・人吉市石水寺「海堂まつり」 熊本県知事選で蒲島郁男氏が3選						「人吉球磨は、ひなまつり」エンディングセレモニー	相良三十三観音春の「斉開帳・湯山温泉桜まつり」 人吉春の市「ひゅうはぎ市」・谷水薬師春季大祭	2016菜の花ウォークinやつしろ 人吉球磨民俗芸能の祭典			



八代駅開通後の地図（明治30年代）

この「月刊・くまがわ春秋」を片手に、これから始まる新観光戦略に併せて外国人観光客にも地元の読者にも、

そして先月3月26日、八代と陸続きになる北海道新幹線の149kmが開通、この熊本の八代と北海道が結ばれた。これで新函館北斗まで八代から約11時間で行けることになる。

め開通セレモニーは各地で縮小され、お祝い気分が盛り上がり上がらなかったのを憶えている。

1991年の着工から20年を要した九州新幹線が全通。今年にはちょうど開通の5周年記念にあたる。しかし、その前日が東北の3・11大地震のため

八代駅

九州新幹線新八代駅から在来線に乗換え、八代から球磨川に沿って走るこの鉄道の役割は、単なる地域住民の足としてだけではなく、観光客・鉄道ファンにとっても、ある意味、大事な役割を担っている。それは超特急と言う新幹線のハイスピードな旅から、肥薩線という超スローの旅への転換という、ダイナミックなシフトの面白さ「スレ」ではないだろうか。そのスローな車窓から球磨川と駅周辺を、

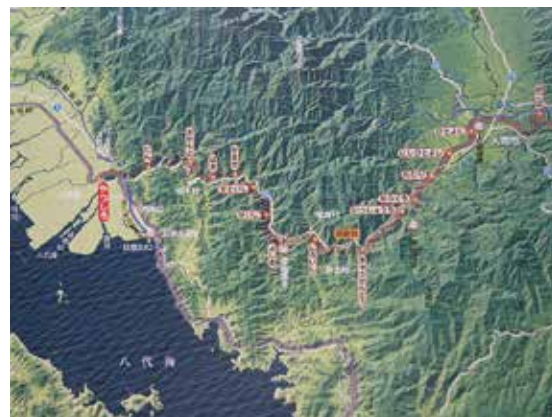
河口から上流まで、その駅を訪ねる

球磨川の駅・ものがたり



連載その① —八代駅

熊本産業遺産研究会 松本晋一



肥薩川線の路線地図（「週刊鉄道の旅」九州⑤ 2007 肥薩線・くま川鉄道）より

はじめに

今回、月刊「くまがわ春秋」の創刊を記念して同誌の名称にちなみ、球磨川の河口に存在する八代駅から上流へと通り、球磨川の沿線に見られる各駅を一連の流れとして捉え、左

岸右岸を走る球磨川の駅周辺を、開通当時の百数年前の昔から現在の様子を含め、それらを紙幅の範囲内で写真や図で振り返り、その変化・変遷について記してみたい。

この「ものがたり」は、今から120年前、明治29年（1896）11月21日に開通した九州鉄道（当時）の終点八代駅を始点として、球磨川沿岸を走る現路線を駅伝いに人吉駅まで走り、人吉駅からは路線をさらに大正13年（1924）3月13日に開通の湯前線（現くま川鉄道）に乗り換え、球磨川本流に寄り添う人吉温泉駅から湯前駅までを順にたどる予定である。さらには戦前に企画された湯前と宮崎（妻線）を結ぶ延長予定線「日肥線」を含め、球磨川の河口から分水嶺までを、その鉄道の

俯瞰した時、この百余年を経た駅や路線から何が見え、何が語れるかを探ってみることにする。

球磨川の源流、湯前、人吉方面に向かうには、新幹線から肥薩線、そして九州自動車道、さらには国道219号線まで、人吉に入る道のすべては標高3mのここ「八代」が起点となつて上流へと遡る。その逆に球磨川は標高1721mの市房山を始め、標高1500mクラスの九州脊梁には、九万（球磨）を超える多くの水源をいただき、その流れ球磨川は総延長120km、多くの流域を包含して最後は不知火海に注ぐ。その球磨川河口の海拔0mから標高191mの湯前駅まで、球磨川を遡る言葉は鉄道用語では「下り」という楽な表現だが、この流域の逆行は、動力源

のない昔、河口から最初の目的地、標高107mの人吉まで、当時は大変なエネルギーと時間を要したものと思われる。では、まずは八代の駅から球磨川を眺めてみよう。

八代駅の昔

球磨川の流れは有明海に注ぐ手前で中州を造り、前川と球磨川に分かれ、さらにその下流の植柳からは南川の三筋に分かれて海へと注ぐ。現在の八代駅の位置は図①のように、この麦島東町の中州先端、その延長線上（矢印）に位置しているのが判る。

しかし、この八代駅は初代ではなく二代目の駅



図① 川下からみた八代駅方面

所は現在のハーモニホールのある新町一帯である。この地図では当時の九州鉄道の路線が直接この街中に入っているのがよく分かる。図③の写真は開

通当時の九州鉄道八代駅とされているが、もしかしたら、明治41年6月の新駅なのかもしれない。

著名な鉄道ファン小沢年満氏（故人）の写真（図④）にあるように初代八代駅からは、明治

であり、その元の駅、九州鉄道の八代駅は明治29年11月、図②の五万分の一地図（明治34）のように、八代町の東のはずれ、球磨川支流の前川寄りに位置して建設された。その場

23年（1890）に設立された日本セメント八代工場からのセメント樽が、荷馬車で直接ホームまで運び込まれ貨車に積み込まれていた。日本セメント八代工場は同年10月に操業を開始しているが、この正月の初荷風景



図② 八代開通5年後の八代（明治34）



図③ 開通当時の八代駅



図④ 初代八代駅での初荷のセメント樽



図⑦ 八代新駅の地図（大正 15）

この新駅は鹿児島へと向かう予定線が球磨川の川線側を通るか、水俣の海岸線を通るか、その両者を意識し

た位置づけるのかもしれない。これだと開通の当初は旧駅からスイッチバックで新駅へと向かったようである。明治

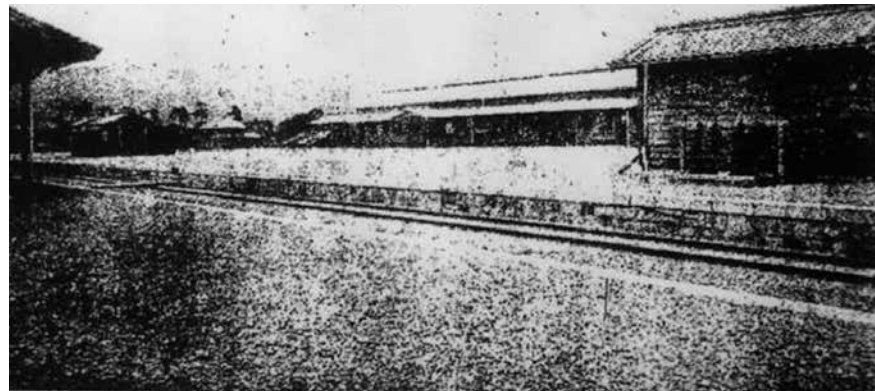
44年2月には木造駅舎が建てられ、当時はこの駅が鹿児島、宮崎方面への表玄関に



図⑧ 球磨川駅全景（昭和 57 年頃）

参考資料
明治41年5月31日福岡日日新聞「帝鐵人吉線畫報」
「八代駅開業100周年記念誌」九州旅客鉄道株式会社八代駅 平成8年11月21日
「九州の鉄道の歩み」昭和48年1月15日日本国有鉄道九州総局
ウィキペディア「八代駅」
「空から見たくまもと」熊本県航空写真集'82 昭和52年11月
ワールドジャーナル
「週刊鉄道の旅」九州⑤
2007 肥薩線・くま川鉄道

なつたと思われる。そして元の駅は球磨川駅（図⑧八代駅荷物取扱所）と名称が変わり、貨物専用駅となつて平成元年頃まで運用されたようであるが、現在は駅に隣接したJR貨物駅がその代替わりをしている。



図⑤ 明治 41 年春の旧八代駅（福岡日日新聞）



図⑥ 旧八代駅のホーム跡周辺

（明治42年頃？）に小沢氏の祖父方が写っていることを本人からお聞きしている。図⑤は明治41年当時の旧八代駅の島式の二面ホーム、図④と同様、遠景には駅舎も見える。その下の図⑥はそのホームが在ったと思われる現在のハーモニーホール周辺である。この九州鉄道八代駅の開業日は旧暦の10

月18日で、丁度八代の妙見さんのお祭りの日と重なり、あいにくの豪雨にも関わらず、見物客で大賑わいであったとのことである。
初代の八代駅が、なぜこの場所なのかだが、ここは蛇籠港や徳洲にも近く、前川（球磨川）と八代海に近距離で接し、恐らく積み荷の搬出搬入が容易だったと想像される。

八代新駅

その後、明治41年5月末、九州鉄道から官営となつた九州線人吉本線が開通、それに呼応して八代駅に向かう線路は、大正15年の地図（図⑦）のように太田郷村の井上のはずれから大きく東の球磨川方向に曲線を描き、萩原堤の近くまで延長される。



ダムを眺める山下清画伯

山下清。1922年（大正11年）～1971年（昭和46年）。放浪の画家として有名。本誌掲載の写真は昭和32年頃のもの。熊本市内での展示会・サイン会のあとに荒瀬ダムに立ち寄ったようである。この頃、画伯は放浪していない。この他に画伯の写真は複数枚ある。



なつかし昭和の写真館 ①

撮影／東儀一郎



人吉市の「水の手橋」(上)

荒瀬ダム見学バスか？ 同ダムの竣工は昭和30年(下)



川遊びとダム見学

故・東儀一郎さんは昭和20年後半から40年後半まで旧坂本村中心に、当時の出来事をカメラに納め膨大なネガを残していた。そのネガには年月日は明記されておらず、年代を推測して鑑賞するしかないようだ。

球磨川大好き！

源流水リレー ①

球磨川源流水リレー初代実行委員長

高場英二



ワークショップ参加パネル

球磨川源流水リレーの第一回は、一九九六（平成八年）年六月九日に、八代厚生会館で開催された球磨川水系ネットワークの発足式からはじまりました。

「球磨川大好き！」

「山から海へ心をつなぐふるさと川」

このタイトルのシンポジウムのプレイベントとして、前日のどしゃ降りの雨のなか源流にむかっの登山。私たちの記念すべき源流水リレーはスタートしたのです。



源流からスタート



水上役場まで自転車隊

源流水リレーは、球磨川源流の水を竹筒に汲み、徒歩・マフソン・自転車・カヌーなど人の力で、人から人へ、源流水をリレーして運び、ゴールの水島で、球磨川と不知火海再生を願い、それを祈り、源流水を海へお返しするというものでした。

当時、マウンテンバイククラブの仲間達やカヌー仲間、トリアスロンの愛好者に協力してもらい、シンポジウム会場へと源流水の竹筒を運びました。

シンポジウム自体の集客は大成と言えぬものではありませんでした。この源流水リレーには何かの手応えのようなものを感じたのです。

当時、ビデオカメラを持ち始めた、佐藤亮一さんが第一回から参加していましたが、佐藤さんは、後に、「ダムの水はいらん！」という川辺川ダム利水事業に二石を投じた映像作品で東京ビデオフェスティバルにてグランプリを受賞しました！

雨の中、佐藤さんは源流水リレーをビデオに撮り続けてくれました。源流に到着したとき、気づいたのですが、彼はゴム草履をはいていました。「球磨川源流への道は水前寺公園

ゴール水島で。…ありがとう

のごと、きれいに整備されとるもんなあ」という登山好きの東慶治郎さんの言葉を信じたとのことです。

この後、佐藤さんが「英ちゃん、10年つづけてみらんやあ」といいました。その言葉が私たちを球磨川源流水リレーを続けていく切っ掛けになりました。それ以来、佐藤さんは毎年、球磨川源流水リレーのビデオを撮影、記録してくれることとなりました。

流域の人達にたくさん参加して欲しいとの思いから、色々な団体、個人に呼び掛けました。ボーイスカウト・みどりの少年団・小学校陸上部・高校の馬術部・各地区の子供会……。上流の水山村からゴールの八代水島まで途切れることなく、たくさんの参加者で源流水の竹筒を繋ぎました。

川辺川問題

当時、球磨川は川辺川ダム問題をかかえていました。私たちは、川辺川ダムの是非は源流水リレーには持ち込まないというルールをにかけていました。一九九八年（平成一〇年）には国土交通省・川辺川工事事務所長の金尾健司さんも参加していました。彼は、現在、河川局長の職についておられ

ます。

ある年、ダム反対派メンバーが掲げた横断幕が熊日新聞の紙面に大きく載り、その翌日、参加者のリーダーの方々から約束が違うと抗議があり、次回からの参加を見合わせると言われました。逆にダム反対派のなかには、金尾さんを参加させたことを非難する声も上がりました。

私たち実行委員会のほとんどのメンバーは川辺川ダムには反対でしたし、とても辛く苦しい時代でもありました。

ですが嬉しいこともありました。中心メンバー右田いくみさんが「第一回全国川のワークショップ」で源流水リレーを発表し、全国ナンバー・ワンのグランプリを獲得したのです。河川法が改正された年のことです。

国土交通省の人々の前で、

「ダムを造る人もダムを反対する人も、球磨川大好きな人は…みんな球磨川水系ネットワークで〜す!」

と河童に喋らせたプレゼンは話題になりました。「いい川づくり」とは、地域住民の声を聞き行政もそれと一体となっ

て取り組むという活動が全国的に広がっていました。翻弄され続けていた球磨川でもパートナーシップを諦めませんでした。

広がりと確信

そんな中、水俣の福田興三さんと知り合い、水俣の海へと球磨川源流水リレーをつなぐという話が現実のものとなりました。二〇〇〇年（平成一二年）を迎え、球磨川源流水リレーは「環不知火海源流水リレー」へと広がったのです。

八代の水島にて竹筒の水を海へとお返ししたあとに、水俣エコパークの海を目指して再びスタートします。途中で佐敷川、水俣川など不知火海へそぐ支流たちの源流水も合流しながら、不知火海再生、水俣の海の再生への祈りを込めて私たちは水をつないでいったのです。この「環不知火海源流水リレー」は福田さんの呼び掛けで、芦北水俣七浦会の協力を得て、テレビ番組として制作され「不知火海浪漫」のタイトルで放映されました。源流水リレーがさらに広まる大きなきっかけになりました。

私たちが源流水リレーを通して、地域に伝えたかったもの



球磨郡の中学生達



人吉で合流の儀



次世代に繋いだ新メンバー



長年のランナー走ろう会

は何だったのか？

それは、故郷の川、故郷の海こそ宝物である！という価値観の共有化でした！

私は当時、休みがあれば球磨川にカヌーを漕ぎに出掛けていました。

球磨川は素晴らしい、魅力にあふれた川です！ 力強くパワーにあふれたいくつもの瀬と美しい川の原風景。

球磨川こそが私たちの故郷の宝物だと確信しました！

こんな魅力的な川は九州にただ二つ！ 日本中にも数えるほどです。

それに加えて、支流の川辺川は二〇年にわたり環境省が認めた水質日本一の川です。

こんな故郷の宝物を流域全体に、県下に、全国に知らしめたいという思いから、私たちは球磨川源流水リレーを続けてきたのです。

源流水リレーは本流球磨川だけでなく、支流の川辺川、万江川なども加わり大きく広がりました。旧坂本村の深水川や八代の水無川などの小さな川の参加もありました。

私たちが球磨川源流水リレーを通して流域に伝えたかったものは何だったのか？

川は時として、氾濫し、大切な生命や財産をうばうものでもあります。

しかし、何よりも大切なことは、球磨川が尺鮎を育み、球磨川下りやラフティングなど他所にない独特な魅力と、そして何よりも不知火海へそぎ、その海の宝を支えるただ一つの大川であるということです。

「この球磨川が大好き！ 球磨川大好き！ 山から海へ心をつなぐふるさと川！」

私たちがつないできたメッセージです。

この二〇年で一番変わったのは、流域の人たちの価値観かもしれません。

私は小学生の時、市房ダムに見学に行きました。大きなコンクリートの建造物に圧倒されていました。ですが市房ダムができたおかげで、透視度三メートルの球磨川は永遠に失われました。

ていました。

夏休みが終わるまで、球磨川が透明な川に戻ることはなかったそうです。

以来あれから五七年、あの透視度三メートルの球磨川は失われたままです。

私たちの源流水リレーにて、源流の水を竹筒に汲み上げ八代の水島の海にお返しする。

それは、源流のままのような水が八代の河口まで流れていた時代に時を戻したい！

美しい水を不知火海へ返したい！

そんな祈りを込めて源流の水をつないできたのです。水をつなぐことが、人をつなぐ、心をつなぐことだ。

転機

二〇〇八年（平成二〇年）九月二日、蒲島知事が川辺川ダムを中止する表明を出しました。

その文面には、「球磨川こそ流域の財産」という言



カヌークラブの高校生も



参加者募集のビラ

記憶の落穂

その①

絵と文／坂本福治



母の里天草に

昭和二十二年、朝鮮半島から引き揚げて、母の里天草に着いた。私は小学四年の年だった。はじめて会った祖母の目と、私の目は同じ高さだった。祖母は私の母を見ていたが、しばらく無言だった。祖母の目の下側から、静かに涙がにじんで上り、「よう帰ったなあ」とはじめて声を出した。祖母はすぐさま「カンボクエー」と言った。何のことかわからない。サツマイモを食べなさいと言っているのだと、母が通訳してくれた。大きなザルに、細い煮たイモが干されていた。今夜はごちそうと決まり、母の妹とかなり歩いて魚屋へ行った。ところが何も無い。村の奥さんたちが、私にわからない言葉で喋っているだけ。「おーい」と遠くから声がした。捕れたての魚が来たのだ。大きなザルが一同の前でひっくり返され、様々な海の生き物たちがうごめいていた。奥さんたちは奪い合うように自分の好きな魚を確保し、金を払って、静かに散って行った。叔母が買ったものにナマコがあった。

【さかもと・ふくじ。画家、人吉市】



ずっと続く水島子供会

彼は初めての球磨川源流に感動していました。子供たちをこの源流に連れてきてあげたい。子供たちに球磨川の素晴らしいをもっと伝えたい。そんな彼にこの球磨川源流水りレーの未来を託せたら。純粋に球磨川大好きな心で繋いでくれ

葉がありました。私たちはこんな時代を待ち望んでいたのです。私たちの価値観が、政治家の口から出てくる時代になったのだと。私たちの球磨川源流水りレーの、一つの役割を終えた時でもありました。はたして球磨川源流水りレーはどこへいくのか？ そんなときに、源流水りレーに八代から参加してくれた現在の実行委員長・松田浩典君に出会ったのでした。



ゴールにはいつも美しい夕陽が...

るにちがいない。私たちはそう確信したのでした。

【たかば・えいじ。陶芸家、人吉市】



限界集落便り ① シェアハウス篇

坂本 桃子

旧坂本村の坂本桃子と申します。
生まれも育ちも坂本、生粋の坂本っ
子です。名前まで「坂本」ですので、
なんだか重いものを背負っている気が
してなりません（笑）。

ここでは「限界集落」をテーマにし
ます。

限界集落。よく耳にする言葉です。
ご存知の方も多いと思いますが、簡
単に説明しますと

①集落の人口減少や少子高齢化に

校に統合され、8校すべての校舎の時
間は止まってしまいました。地域から
子どもの声が聞こえなくなることほど
寂しいことはありません。小学校の統
廃合は坂本町の衰退に拍車をかけた
ような気がします。

これから坂本町はどうなっていくの
だろう。私は、

深刻な状態をむ
かえているふらふ
との現状に、悶々
とした日々を過
ごしていました。

しかしながら、
ある日私は、そ
れがとんだ勘違
いであることに気
が付きまして。こ
こからは、そのこ



よって、その共同体の「コミュニティ
を維持することが困難になってし
まった集落
数値的（厳密）に言えば、
②高齢者（65歳以上の人）が人口の
半数を超えた集落

を指すようです。坂本町は、全集
落の半数以上が限界集落（②の意味
で）です。52パーセントが65歳以上
の高齢者（2016年1月末現在）
であるという、全国的にみても高齢
化率が高い地域です。

とについてお話しします。

私は、いま、百済来の実家を出
て、町内の別の集落で生活をしていま
す。そこにはアパートやマンション等
の賃貸住宅はありません。空き家に
なっていた一軒をお借りして、同級生

そんな「限界集落」のメッカ（と
いういい方はあまりふさわしくないか
もしれませんが）である坂本町の集
落では、集落単位で行われる伝統行
事や伝統芸能の消滅（または休止状
態）、冠婚葬祭の簡素化が当たり前
になってきました。私が生まれ育った百
済来地域の集落も、残念なことに限
界集落となつてしまい、ここ数年で子
どもの声を聞くことがなくなりました。
地元の保育園の園児もついに10名
あまりとなつてしまいました。かつて
町内に8校あった小学校も、いまは一

（女性です）と共同生活をしていま
す。最近、都市部の若者のあいだでは、
「シェアハウス」といって、ひとつの建
物に複数の人間が共同生活をする
という、新しいライフスタイルが流行し
ています。お金のない若者にとっては、
高い家賃を払ってアパート暮らしをす
るより、少しばかり自由がなくても
複数の人間で家賃や光熱費、食費を
割り勘にし、わずかでも生活費を浮
かせたほうがいいのです。もちろん、
それだけでなく別の理由でシェアハウ
スという生活を選ぶ人もいるのですが、
（たとえば一人寂しくアパートに住む
よりも誰かと毎日賑やかに過ごした
い、など）

そんな都市部での「シェアハウス」
に少し憧れもあった私は、なんとこの
坂本町で「シェアハウス」をはじめ

ことにしました。しかし都会のそれとは大きく異なります。お洒落なキッチンではなく、昔ながらの土間。夜はコオロギや鈴虫が布団の隣で泣いていたり、パソコンにむかっている時に天井からムカデが降ってきたり…(汗)

ある時は、外の洗濯機のとこへ行くと、数匹の鹿が目の前を通過したり。はじめは戸惑いましたが、少しずつそんな生活にも慣れていき、半年を過ぎた頃には毎日快適に過ごすことができるようになっていました。

こういったことはこの集落だけでなく、田舎であれば日本全国どこでも見られる当たり前のことかもしれない。しかし、都市部での生活も少し経験したことのある私にとっては、そんな心があたたくなる出来事が真の生活の豊かさで、「生きていく」という実感を、毎日、あたえてくれます。これだけ「限界」だと言われている坂本の集落に住んでいる私ですが、まったくもって「限界」だと感じるこ

とがあればちゃんと他愛もない会話をし、そのまま家でお茶をいただくこともしばしば。集落一、器用なおトウサンが、大雪後に破裂した水道管をものの1時間で修理してくれ、しまいには家のリフォームまでニコニコ笑顔でしてくれます。

とがありません。そもそも、集落の限界を決めるのは、外の人間ではなく、紛れもなくそこに住んでいる住民ではないのでしょうか。少なくとも、うちの集落は限界集落ではありません。なぜなら、実際にこの集落に住んでいる私が、限界どころか無限の可能性を感じているのですから。

【さかもと・ももこ。八代市坂本町】



オキノの視点①

子どもと事故

興野 康也

友人宅に出かけているときに、娘のやすみが犬に噛みつかれました。僕はその場にはおらず、妻の美紗さんがいつしよたつたのですが、美紗さんもあまりに突然の出来事に気が動転してしまいました。やすみがエサをあげようとしたときに、急に飛びかかってきたそうです。小型犬なので油断していた面があったかも知れません。

顔面や腕を噛まれ、顔の回りが血だらけになりました。すぐに近くの救急病院に行きました。看護師や医

師の方々は親切で、やすみが病院に來ても泣かずにいることをほめてくれました。犬の噛み傷はい菌が入って化膿することがあるので、縫わずに水で洗ってテープでとめて、様子をみるとのことでした。

それから何度かテープがはがれてしまつて再受診したり、傷口から血が出たりしたのですが、しだいに、よくなつていきました。インターネットで検索すると、「犬に顔を噛まれた」という記事が多くあり、経過や対応

の概要がわかつて不安が減りました。一般的に噛まれた直後には縫合はせず、傷口を丹念に洗つたうえで抗菌薬などを投与して経過をみる人が多いそうです。もしも傷跡などが残ってしまった場合には、半年ほどしてから形成外科で手術などをしてもらえるそうです。僕以上に美紗さんの罪悪感が強く、「やすみの顔に傷が残つて



しまうのでは」という不安も大きかったので、情報を知って助かりました。

このあと考えたのは、「子どもと事故の関係」ということです。子どもの死因の上位に事故があるということは以前から知っていました。ただ自分が実際に子育てを経験するまでは、そこまで切実には受け取っていませんでした。どこか他人事と思っていたのです。

インターネット上にある消費者庁の「子どもを事故から守る！プロジェクト」資料によれば、0歳児の死因のうち「不慮の事故」は4位だそうです（2013年の調査）。さらに1〜4歳児では死因の2位、5〜9歳児では1位と上位になっています。不慮の事故の内容としては、1〜4歳児の場合、交通事故、窒息、溺水、転

倒・転落、火への暴露などが多い順に挙がっています。

変な物を飲み込むこと。お風呂で溺れること。階段からの転落。熱いものに触ってやけどすること。いずれも娘のやすみや息子の響に実際に起こったことや起こりそうになったことばかりです。子どもは実は事故の塊なんですね。

さらに予防も「言うは易し、行うは難し」です。理論上は簡単で、ずっと見ていればいいだけなのですが、実際には大変です。子どもはちよつと目を離れたすきに机のうえに立ったり、階段の手すりの外側を上ったり、とがったおもちゃを口に入れたり、湯舟のなかで滑ったりするのです。複数人の子どもがいる場合には、全員に完璧に目を届かせるなどという不可能で

す。「ちよつと心配だけど、ほっておく」時間が必ず発生するのです。なので厳密に考えると怖いのですが、実際にはそうなってしまうのです。

ではなぜ、こんなに子どもは事故を起こすのでしょうか？子どもと暮らしていてもつきき考えつく理由は、「猛烈に世界に対する好奇心があるから」です。知らない場所に行こうとしたり、高いところに登ろうとしたり、知らないものに触ったり、食べようとしたりする。その好奇心は大変恐るべきものです。新奇的な経験をたくさん吸収していくことで、子どもは理解や活動の範囲を広げていきます。そして未知なるものに触れようとするから、同時に危険も呼び込むんですね。

僕自身のいままでを振り返ってみても、成長した時期は同時にまた危険

な時期でもありました。先の見通しの立たないままに活動に飛び込んだり、いままでやったことのないことに手探りで取り組んだり。うまくいかいかないかではなく、「未知なるものへ触手を伸ばす」こと自体が成長だったと思います。そしてチャレンジすることには必ずリスクが伴うんですね。事故や社会的な問題につながりやすくなります。人の一生のなかで考えると、幼児の段階も危険な時期ですし、自立をはかる青年期もそうだと思います。

子育てに話を戻すと、親は時々は「子どもが生きていることそれ自体に危険が含まれている」ということを意識しないといけないでしょう。なので子育てにはヒヤヒヤするスリリングさがあることになります。基本的には単

調で面倒なことの多い子どもの世話ですが、冒険なんだととらえ直していただく必要があります。

親も子どもの挑戦する姿から学ぶこともできるはず。一般に年齢とともに新しいことにチャレンジする機会が減っていきます。僕自身も以前よりも保身に傾いていると感じます。自己改革や向上よりも、安定とか確実

さとかを考えていることが多くなったのです。何事にも捨て身で挑戦する子どもの姿こそが生きていることなんだと、時々反省することが僕には必要です。安定し過ぎていることは停滞なはずですから。

【おきの・やすなり。精神科医、人吉市】





<九州相良藩【吉組】とは>

九州相良藩【吉組】は、およそ10年前に、主宰の「線香屋の【定吉】(住吉則昭)」が、一人きりで人吉駅前の「からくり時計」で観光客のみなさまのお迎えとご案内をはじめたことからスタート。その後、晴れの日も雨の日も風の日も【定吉】は、からくり時計や青井阿蘇神社ほか市内の観光スポットに出て、無償で観光案内を続けている。その真摯な姿勢に心打たれた人々が少しずつ集まり、2015年3月には人吉観光案内人団体「九州相良藩【吉組】」が発足した。



田園シンフォニー車中にて

子どもでも持ち上げられるので、誰かは判らないが持ち帰ってしまい、その隙間が格好の灰皿となってしまうのだ。
私は瞬間に、この男に言葉にあらわ

せない興味を持った。この男、ほぼ週末にはトキメキ通りに現れ、そして同じ行動を続けているのである。週末その男が現れる時間になると私もトキメキ通りに向かい、男から離れたと

ころで観察をする。声もかけない。今で言うストーカーである。
秋になった。この日はトキメキ通りからの行動が判明した。人吉駅前からトキメキ通りのゴミ拾いを済ませると、青井阿蘇神社方面へ交差点を右折し、参道と蓮池の間にある土の部分の草むしりをはじめたのである。私

人吉観光案内人物語

住 吉 則 昭

定吉が行く

—1—



© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭 鳥飼 博

謎の男の正体は？

想い起こせば平成19年春の日曜日、美しく整備された通称トキメキ通り(人吉駅前通り)の歩道に設置された車止めにモゾモゾと何かしている男がいた。この車止めは御影石で造られており、上部には人吉球磨地域でいにしえより子供の遊び道具として伝



人吉駅前で観光案内する定吉

わる『きじ馬』が施してある。同じく御影石でできている。
この男、どう考えても清掃作業員には見えない。すると『きじ馬』をスツと持ち上げ、その中から何かを取り出し『きじ馬』を元の位置に戻した。そして一歩あるくと歩道のゴミを拾い上げ買い物のポリ袋に入れた。その時に、この男はトキメキ通りを清掃しているのだと解った。風貌は、色白でメガネを掛け、すらりとして真面目そうな男である。年齢は五十代に見えた。
『きじ馬』の車止めでの行動は、トキメキ通りを歩く観光客が『きじ馬』を灰皿代わりにしていたのである。この『きじ馬』は、

の心の中に「感動」という気持ち
湧き上がった。男は草むしりをしな
がら、参道の様子をうかがっている。す
ると、小旗を持ったバスガイドが案内
する団体客が通りかかった。この男は、
さりげなくその集団の中に入り込ん
だのである。しかもゴミのポリ袋はそ
の場に置いたまま。私はすぐに「感
動」を蓮池に打ち捨てた。とつさに「こ
の男はスリだ!」と思い、団体の最後
尾から男を見張った。鳥居の前で一礼
をして、手水舎の前で青井阿蘇神社
宮司の案内を受ける団体客の中に紛
れ込んだ男は、上着のポケットに手を
差し込んだ。もう何か盗んだのかと
思った私は、団体客を掻き分け男の
すぐ後ろに立った。いつの間に誰から
何を盗んだのであろうかと、私の胸の
鼓動は早くなつていくばかりであった。

ところが男はポケットから手帳とペ
ンを取り出し、宮司の説明を書きとつ
ていではないか。なんと不思議な男
であろうかと思うと同時に、安堵感
と自らの早とちりに呆れた。宮司が
語る楼門の説明に頷きながら、速記
でも勉強した経験でもあるかのよう
な速さでメモをとっている。拝殿、幣
殿、廊、本殿と20分位の説明の時間
を同じように過ごしていた。

観光客の団体は案内が終わると観
光バスが待つ駐車場へと帰って行つた
が、男はそのまま宮司の後を気付か
れないように一定の距離をとって付い
て行き、社務所へと入って行く宮司に
神様を拝むように深々とこうべを垂
れたのである。私の心には蓮池に捨て
たはずの『感動』が、再び舞い戻つて
いた。男は、頭を上げると鳥居を出

たところで振り返り一礼をして、置い
てきたままのポリ袋の前に戻り草む
しりをはじめた。その日の私は激し
かった心の出入りに疲れてしまい、い
つものように男に声をかけることなく
その場を後にした。

観光シーズンも終わりに近い秋も
深まった土曜日に、青井阿蘇神社に
参拝に出掛けた。参拝者は襟巻きに
コートという装いが目立った。境内を
見回すと、十数名の団体を案内する
宮司の姿が目に入った。頭の中でスイツ
チが入った。私の頭の中の回線は正常
に機能していた。その観光客の集団に
目を凝らすと、やはりそ知らぬ振り
で観光客に成りきっているあの男がい
た。妙に嬉しさが沸いてきて、そこは
はおかしくなつてしまったのではない



ロンドンタクシーと吉組のメンバー

かと疑心暗鬼に陥
る自分がいた。男
は週末になるとい
つも同じ行動をして
いることは間違
いなく思った。あ
の男の血液型は絶対
にO型に違いない。
自信があった。若
い頃には信じなかつ
た血液型診断も、
この年齢になると
経験値が物を言う
のだ。数年後にあ
る出来事をきつ
かに本人に確認す
る機会があつて尋
ねたところ、『俺ら
O型ばい』。やはり

あの時の診断は間違つてはいなかった
と証明できた。

寒風の中を観光客に成りすまして
いる男をながめているうちに、一つの
疑問が沸いてきた。週末になると青
井阿蘇神社に向き観光客に紛れ込
んでメモをとる男。説明を受ける時
間は約20分間。その疑問とは、青井
阿蘇神社の宮司は、あの男に気付いて
おられないのであろうか? 気付いて
おられて何も言われないのか? 何
か言われているのなら、いつも同じ
ように説明を聞きメモをとることはで
きないであろうし、観光客に成りす
ますということは尚更である。

次号は『職務質問』です。



【とりかい・ひろし。人吉市】

川ん太郎の手

緒方雅子

「むかし、居った。じいちゃんが若つか時分になあ。

オルが佐敷の計石港から、魚は大八車にいっぱい載せて渡村（現球磨村）の渡し場まで、そいば運ぶ仕事ばしよったタイ。

そんで、戻りかけ天目の才木川の淵で休んどつたら、生臭く、そうして冷え臭か二オイの風がゾーツと吹いたかと思うと、オルが前にヒヨイと立ってなあ。そうな、身の丈は大人でもなく子どもでもなく、背中にコウラばしよって、頭はベツタラーにして、水ばしたらせて、立つとたい。そして、

『オイ、相撲ばとろう』

りばうろついて、

『ホーイホー』

と囃して、セからしかタイ。そんで、つい、

『ホーイホー』

と返事どますれば、うれしがって寄ってきて、山奥さん連れていってしまうけん。よかね、こんこつば、よく覚えておかんばワカラんよ」

と云った。昭和30年代の話である。

祖母も同じだった。その頃どの家にもテレビはなかった。祖母は、冬場には「雪ババ女」の話を、夏場には「川ん太郎」の話を寝物語でしてくれた。

川ん太郎の手は水害のとき流されてしまった。持ち主の川ん太郎（山ん太郎）さんに届いただろうか。なんだか、ものがなしい。

川ん太郎（山ん太郎）は、ひょうきんで、鮎や鯉などの魚がいつぱいいそうな川、うつそうとした山が好きだ。そういえば、芦北では、川や山で亡くなった児童がいたら、お地蔵さんとして供養する習わしがある。佐敷の旧家・芥川

と云うて、いきなりオルが身体にぶつかってきてなあ。はずみばくろうて、オルはつっこけてしもうたけんど、相手の腕ばしつかりつかんどつて離さんだつた、アイヤツの手がとれてしもうた。

「イテテー」

と甲高い声ばあげて淵のなかに飛び込んでしもうたたい。こるが、そのときの手たい」

と祖父は云つて、古いタンスの引き出しの中から、黄色い油紙に包まれた骨の塊を見せてくれた。話の終わり頃になると、

「山ん太郎さんは、川ん太郎になつて球磨川の淵に住んてるけん、決して、大小便なしてできん。大小便ばしたら、ジゴン巢ばとられて死んでしまふけん。

冬になつとしゃが、川ん太郎は山ん太郎になつて山にいらすけん、

『山ん太郎さん、山に入りますけん、よろしゅう頼んます』と云つて仕事（シゴツ）ばせんなんよ。云わんとしゃが周

家には、小説家の芥川龍之介の河童の絵が保存されているという。

芦北町から八代市に引っ越したが、いまでも、私の気分は芦北もんである。

【おがた・まさこ。八代市】



絵／坂本福治

くまがわすじの考古地誌

(1)

球磨川筋の弥生時代①

熊本県立装飾古墳館長 木崎康弘

(NO.162)

亀ノ甲式土器。

八代からの入植ルートを考える

『くまがわすじの考古地誌』は、『週刊ひとよし』でこれまで連載してきた『球磨の考古地誌』の後を引き継いだ歴史叙述シリーズである。その視点は、人々がどのように暮らし、どのように関わりあい、そしてどのように交流してきたのかを、球磨をベースに据えながら、球磨川流域全域、さらには八代海沿岸域にまで対象範囲を広げて語ろうとするものである。その一回目を八代の話題から始めよう。

『球磨の考古地誌』一六〇では、球磨郡多良木町黒肥地の大久保台地に細

形銅剣が持ち込まれたのは、弥生時代前期末から中期初頭の亀ノ甲式土器の頃であった、と書いた。そして、続く一六二では、その年代について、「北大久保B遺跡で見つかった土器（亀ノ甲式）に付着した炭の年代（暦年較正）から、二四二〇年前であった可能性が高く、前期末の古さだったのではなからうか」と書いた。さらに「有明海沿岸に住んでいた人々は、玄界灘沿岸の人々から細形銅剣を手に入れたのだろう」とし、その人々の中の誰かが、細形銅剣を携えて、九州山地を越えて球磨に入ったと書いた。そのルートは、「海

路で直接八代に到った人々が入ったり、海路なり陸路なりして熊本平野にやって来た人々が入ったりできる大通峠越えが現実的である」とも語った。では、具体的に八代でその頃のムラの跡が見つかっているのだろうか。そこがポイントでもあり、話題としてみよう。

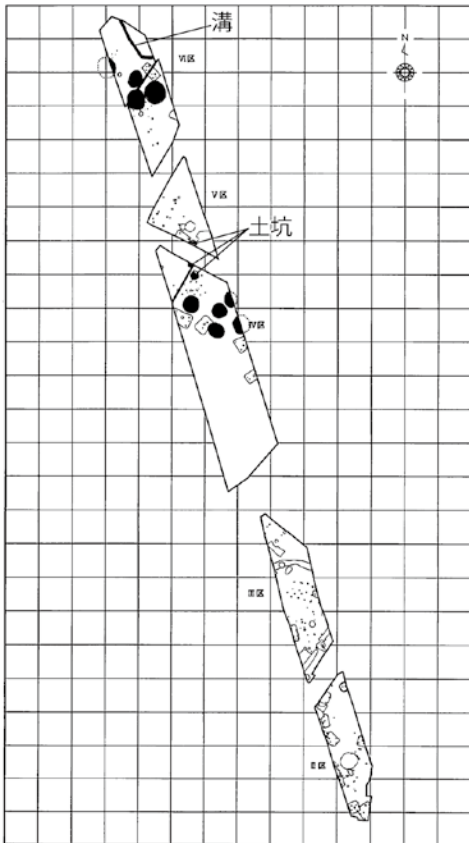
八代市内では、二〇〇〇（平成二二）年度から〇三年度にかけて、九州新幹線新八代・西鹿兒島間建設工事で破壊される遺跡の発掘が行われていた。その数は二三ヶ所で、縄文時代から近代までの遺構や遺物が次々と発掘されていった。そんな遺跡の中に、島田遺跡があった。

遺跡は、新八代駅の北隣りに位置し、当時の海岸線に近い沖積平野の自然堤防上にあった。発掘は、熊本県文化課参事（現、熊本県立装飾古墳館学芸

課長）の坂口圭太郎が担当。三三〇〇平方メートルの広さの、細長い発掘区で、二〇〇一年八月六日から二〇〇二年三月二九日まで行われた。その発掘区の北半部で発見されたのが、亀ノ甲式土器の時期の竪穴式住居跡九基や土坑（素掘りの坑）三基、溝一条だったのである。

まず、竪穴式住居跡は、広場のよう

な空白区を挟んで、発掘区の中央部に五基、北端部近くに四基と、二ヶ所にまとまって分布していた（図①）。この状況から、未発掘区にさらに多くの住居跡が眠っているだろうことが予測でき、また当時、ムラには広場が配置されていたことを想像させてくれた。平面形には、円形が三基（中央部二基、北端部近く一基）で、楕円形が五基（中



図①竪穴式住居跡・土坑・溝の分布

現状で分かる範囲で想像してみよう。

亀ノ甲式土器（写真①）を持つ人々は、八代海を間近に望む微高地にムラを構えた。彼らが元々どこに住んでいたのかは分からないものの、船を使って有明海沿岸のムラからはるばるやって来たのだろう。まず、幅約五メートルの広場を設けるところから、ムラ造りは始まった。次に、そこを取り囲むか、



写真① 26号住居跡出土の亀ノ甲式土器

そこを介して対面するようにイエを配置していったようだ。その広さは、幅八メートル。広場の用途ははっきりしないが、ゴミ穴も掘られていたように、祭りの場ではなく、日常生活でのいろいろな作業や活動が行われていた所だろう。例えば、食糧にするために、弓矢（石鏃）で捕った獣を解体したり、山で採集した木の実を磨石・敲石と石皿・台石で製粉したりしたかもしれない。また、磨製石斧で伐採した木材を、削器などで加工したりしていたのかもしれない。

亀ノ甲式土器の時期の八代平野に、島田ムラ以外にどれだけのムラがあったのかは、定かではない。とはいっても、弥生時代前期末から中期初頭にかけ、弥生人たちが、ムラを構えて、しっかりと暮らしていたことは間違いない。これは、島田遺跡の発掘が明らかにし



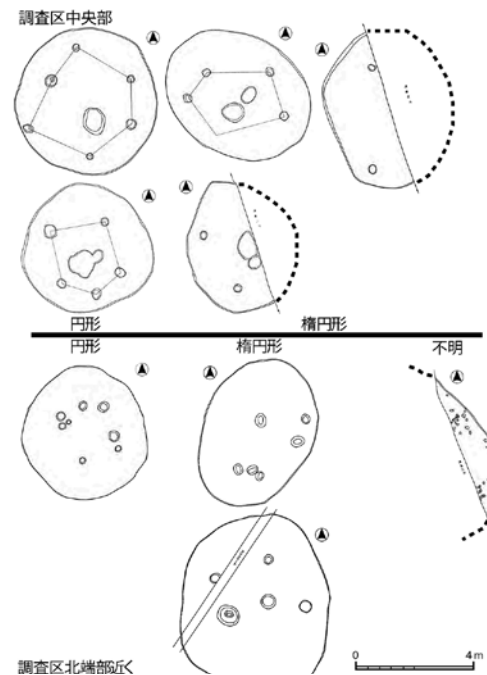
写真② 八代からの球磨入植ルート

たことだが、八代方面から球磨への入植も、あながち的外れとは言えないかもしれない。

参考文献『島田遺跡』（熊本県教育委員会、二〇〇七年）

中央三基、北端部近く二基）あった（図②）。また、北端部近くの二基は、ほとんどの部分が発掘区外だったため、不明（図②）。大きさは、円形が四〇五メートルで、楕円形が四〇六メートル×四〇五メートルだった。

土坑の平面形は、円形二基と楕円形一基だった。大きさは、円形のもの

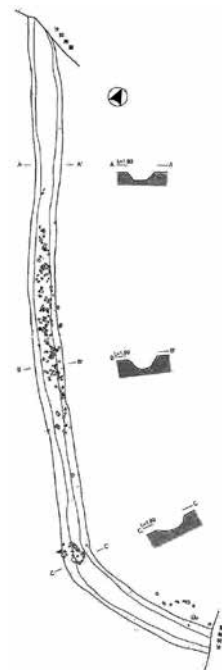


図② 竪穴式住居跡の形

径一・六八〜一・四メートルと二・二〜二・〇二メートルで、楕円形のもものが一・三二×一・八七メートルだった。中から甕形土器や高坏形土器の破片が出土したことが

ら、土器片などのゴミ穴と考えられている。

溝は、北端部近くの竪穴式住居跡の北側にあった。調査区北端から南東方向に走り、その後東にL字状に折れ曲



図③ 溝

がり、調査区外に延びていた。確認された長さは一・五メートルだが、総延長は不明。幅は〇・六〜〇・七メートルで、深さ一〇〜二七センチメートルだった。こういう溝の場合、水路の場合もあるし、集落を取り囲む環濠（かんごう）の場合もある。また、区画するための溝の場合もある。いろいろと想像できるのだが、保存状態も手伝って、発掘では、細かい情報が得られていなかったようで、報告では、用途は不明と結論付けられていた。

島田遺跡で見つかったムラの跡は、線路部分の発掘だったこともあり、その全体像が今分からない。そこで、

郡築干拓の農業①

磯田 毅

衰退が続く農村で、野菜栽培を中心とした経営で豊かな農村地帯を築いている地区があります。それは八代市の郡築という地区で、干拓されてから112年の歴史を持ちます。郡築の地名は、当時の八代郡が築いたということから「郡築」になったそうです。

干拓は当時の予算で100万円（今のお金で200億円）という大工事でした。法人の「郡」が地主ということもあって、入植農家にとつてとても厳しい小作条件でしたので、農家と郡との間に小作料を巡る激しい争い

が起きました（日本の三大小作争議の一つに数えられるほど激しいものでした）。事業の目的は、八代農学校（現県立八代農業高校）や八代女学校（現県立八代高校）そして道路などの運営費に充てようとするものでした。当初339戸の農家でスタートしたこの地区は、現在4600人（農家数約600戸）が住む豊かな農村になりました。

郡築が干拓された1904年頃の日本の人口はおよそ



4600万人位ですが、その後人口は急増し、100年後には1億2800万人になっています。こうした人口増加は食糧増産が必要ですので、郡は食糧生産地を広げようとして松高と八千把沖にある干潟に目を付けたのです。1600年頃の海岸線は松浜軒辺りですが、そこから沖に向かって幾つもの干拓地が出来上がっていったことには驚きます。八代平野は面積の3分の2近くが干拓地ですので、八代農業は球磨川と氷川が運んだ土によって支えられていることになります。

熊本県の農業産出額（3250億円）はここ

5年間上昇が続けていますが、中でも野菜生産は特に伸びています。1200億円の野菜産出額の中で最大はトマトです。トマトの産出額は410億円前後でコメを大きく上回っています。郡築地区はこのトマト栽培に最も早く取り組みました。農業用ビニールフィルムが誕生したのは1951年ですが、すでに2年後の昭和28年にはビニールを使用したトマトの栽培を始めています。実は、珍しいトマトの栽培を農家に紹介したのは、驚くことに八代市の農政課（当時）でした。最初のビニールハウスは八代工業高校の生徒が実習で作ったポリ・ナットを使用していますので、まさに八代の産学官が連携してトマト栽培は始まったのです。

【いそだ・こわし。農業、八代市】

事始め

亀田英雄

人を雇って木材生産をする、それが家業でした。住んでいるところが山奥で、いつのまにか、この仕事に従事するようになって、気づけば三六年もの歳月がすぎています。

私が子供のころの記憶では、木材の値段も良く、多くのみなさんが山の仕事で生計を立て、地域は活気に満ち賑わっていました。力仕事ですから、みなさん、丈夫で、「酒飲み」でもありました。私はそういう人たちに囲まれて育ちました。環境は人をつくる、まさにそう、私はそのようにして育ち、今にいたっています。ただ、まだ若い気持ちでしたら、いつの間にか…という歳になつてしましました。



仕事に就いた頃は、季節に合わせて仕事をしていました。冬から春にかけては地拵えから植えつけ、梅雨の時期から夏にかけて下草

刈りに、雑木の伐採。秋から杉、檜の本格的な伐採というサイクルがあり、その途中で間伐をしたり、椎茸の栽培などをしていました。夏の下草刈りでは、蜂に刺されたり、雷で怖い思いをしたものです。

「きろく、たけはち」という、今では伝説みたいな業界用語があります。不思議なもので、木や竹は成長期に伐ると、虫がついたり、傷み方がひどく、製品としての価値が下がります。竹は特にわかりやすく一年で腐れたりします。つまり、「きろく、たけはち」は、旧暦で、伐採を始めて良い時期を示す言葉ということになります。寒中も伐採はいけないものと教えられました。むかしは、自分の山の木で家を作るということが当たり前でしたので、そのような仕事をするときは、月の満ち欠けにも気を配っていたものです。

そんな造林・育林もしながらの林業でしたが、最近では一年中伐採し、ほぼ建築用木材を生産するだけになりました。木材単価の下落は著しく、高性能林業機械の導入による、いかに伐出経費を削減するかということが、生業としての林業をつづけていくうえでの課題のひとつになっていきます。

長男が「家に残る」という選択をしてくれましたので、私も、

そのような機械を導入しました。長男は、しつかり頑張ってくれていますし、若い従業員も意欲的に働いてくれます。たのしいかぎりです。会社としての形態も整ってきました。

私が仕事を始めたころは斧を腰に差し、たまには木材を肩に乗せる仕事もありました。きつい思いもいつぱいしました。今ではそのようなことはほとんどありません。もちろん

自然相手の危険な仕事であることに変わりはありませんが、それ故にまた、仕事を終えたあとの達成感は例えようのないものです。

いま、古臭いことを若い連中にのたまいながら、背中ではいろんなことを伝えていけたら良いなと思っています。

【かめだ・ひでお。林業、八代市坂本町】

せきれい 鵲鴿短歌会

三月詠草

なでしこのピッチのなかに穂希なく女子サッカーの華は消えしか
風さむく春風誘うか梅の花名をみの春に人は集ひて

守永 和久

久々にはらからと逢ひ酒を汲む通学時代に話が弾む
作小屋といふ名の里の小川城 菊池一族の末裔住むとか

河内 徹夫

天空に兄の煙の昇り行き八年後に姉も逝きたり
若き日の通学駅の構内の隅に小さき芝ざくら咲く

中村美喜子

大木の樫の木倒す恐ろしき成功すれどびつしより汗が
里山の巨木倒して細道を運びてすつきり五右衛門風呂へ

西 武喜

在宅の介護一月過ぎたれば夫も落ち着き吾も安らぐ
スーパに老人食が並んでる「ごめんさい」と手作り省く

釜田 操

ニユースにて平均寿命が世界一長寿の国と喜ぶべきや
朝焼けにたなびく雲の鮮やかに西に明星きらりと光る

緒方 保正

寒もどり身体にひびく日々なれど春待つ花の吾を癒せり
おだやかに暮らせる日々感謝しつ東北の人に思いを馳せる

中原 康子

亡き夫が丹精こめた肥後椿ばつさり切られ寂しさつのる
球根のグラジオラスに話しかけ「きれいに咲いて」と土掛け祈る

三原 光代

大寒の中州の柔き陽だまりに水鳥集い何を語るや
雉鳥の声に応えて犬が哭く未だ野生が残りしものか

橋詰 了一

桜咲く寒さの残る夕暮れに瘦せた守宮が茶の間を覗く
ふと目覚め悩みの種の芽生へきて摘み取りをれば早や朝光が

堀田 英雄

母親たちの春

椎葉直美

リレーエッセイ

伏流水

連載その①

標高千メートル級の山々に「じゅーぐりーつ」と囲まれた人吉盆地。そこには最高級の伏流水が湧き出し、やがて清流球磨川となり八代平野を潤して不知火海へと注ぐ。その恩恵たるや、まさに言語に尽くせぬ偉大さである。現代に生を承けた我々もそれにあやかり、いささかなりとも世の伏流水とならんと願いつつ、このバトンをつないでいきたい。(前田一洋)

花がほころぶと、笑顔もほころぶ、そんな良い季節になりました。我が家の春といえば長女の中学への入学でしょうか。真新しい初めての制服に身を包まれ登校する娘の姿が楽しみです。私の子育て生活十四年を振り返り、苦を楽と思えるまでに私を成長させてくれた子供たちに感謝しています。

初めての子育ては苦としか思えず、長男が四か月位になるまでよく泣いていました。そう、親の私がよく泣いていたのです。今となれば笑い話になりますが、あの頃の私は心が少し疲れて

いたのでしょうか。お宮参りの写真を見て、笑顔の写真なんてほとんどありません。母子手帳には涙もろくなつたと書いてあり、この子に病気をさせないように育てられるのか不安で不安で、一か月健診の時に産婦人科の先生に涙目でそのことを話しました。先生から返ってきた言葉は「大丈夫、赤ちゃんは勝手に育ちますよ。」無責任な言葉に聞こえるかもしれないですが、それは「心配しすぎないで！」という気持ちを込めての言葉であつたでしょう。

先生のその言葉どおり、赤ちゃんつてみるみるうちに成長するんですね。笑うようになり、親の姿を目で追うようになり、体全体で喜びを表現したりと表情が見えてくると、この子は本当に私を求めているのだと愛しさが

湧き私の育児生活にも楽しさが見えてきました。

ですが育児とは、楽しさの中にもやはり孤独を感じることも多いものです。夫が勤めに出ている昼間も夜中の授乳の時も赤ちゃんと一緒にきりで「ああ、今日も誰ともしゃべらんかった。」と夕暮れ時にため息をつくことが何度もありました。人は弱くて寂しがり屋だから、楽しいことや愛を求めて別な道へ逃げてしまいたいになることもあるでしょう。育児を放棄してまでその道を選んでしまった母親が十年二十年経った時に、それで得たものが何か良い形で残っているのでしょうか。私にとって三人の子供たちは自分の生きた証であり、我が子ほど私のことを求めてくれる人はいないと今実感しています。赤ちゃんは母親を



三人目は瀬戸産婦人科で出産。三人目ともなると子育てにも余裕の笑みが! (平成 18 年、瀬戸致行先生と)

が早い段階で気付くことができないのだろうかと思えます。

母親たちの中にはどうしても子供を育てる自信のない人がいて、それが形となり、子供への虐待であつたり、離婚であつたりと子供たちの幸福の権利が脅かされることになり得ます。しかしその責任を母親にだけ押し付けることはいけないと私は考えます。少子化対策で、母親たちの育児環境の整備が進められてはいますが、不安や孤独を抱えながら頑張っているお母さんたちを、社会は本当に温かくサポートしているのでしょうか。母親は産後しばらくは精神状態がとても不安定。そんな時が必要か……

私の場合、夫や両親など私と向き合い話を聞いてくれる人でした。長男を出産したのがこちらへ嫁いで一年も経たない時でしたので、私にはママ友と呼べる人がいなくて、当時須恵村の保健師さんにもたくさん話を聞いてもらい救われた気持ちでした。ご主人の仕事の帰りが遅い家庭、核家族でそばに両親がいない、友達もいない、そんな母親たちをみんなが気に掛け、支えることはできないのでしょうか。そして育児で悩んでいるお母さんたちは一人で抱え込まず、もっと積極的に近隣の人たちと関わりを持つて悩みを声にすることが必要で

しょう。みんなで助け合い母親を守ることができれば、それは子供たちを守ることであり、結果的には社会を守ることであります。行政に頼らずしも私たちにできることはたくさんあるはず。それでもやっぱり子供を育てるにはお金が必要なので、行政に頼らざるを得ないところもあります。自分たちの子供を育てるお金は自分たちで稼がにやどする！と、昔の方から叱られそうですが、我が家は共働きでも毎月家計はギリギリ。どうしても共働きができない家庭、ひとり親の家庭では母親の心身は健康なのか、子供たちは健全に育てられてい

るのか気になるところです。世の中の母親たちが本当に必要としていることは何かを今ひとつ考えて欲しいと思います。

私たちが住む町を流れる球磨川に今年もたくさんの桜が咲き、春の喜びを告げています。「春が来たね」「春っていいね。」全ての母親たちが平等に春の喜びを感じられますように。

【しいば・なおみ。団体職員、球磨郡あさぎり町深田】

桜色の春を想いて

牛嶋 将克

春の日差しは柔らかい

静かに、静かにエネルギーを降り注いでいく

春の朝日はまぶしく神々しい

見えるものすべてをやさしくゆつくりと

しかし確実に淡い桜色に染めていく

春の日差しは暖かくふわふわしてやさしい

とりわけ球磨川のせせらぎは、春の日差しを浴びてキラ

キラと輝きを増す

そうそう、清流の中で無数の命が育まれていることを教えてくれるようにね

貴方にも聞こえますか？

新しい命が一斉に息吹き始める鼓動が

「ふ〜ふ〜」「ぽこり」「にょろにょろ」「ふわふわ」…

生まれたての命は小さくて、なんだか可愛い

ヒヨコを抱くように、そっと抱きしめてあげないと壊れてしまいそうです

「ぴよぴよ」「みいみい」「クワンクワン」…

脊梁の山々や清流球磨川のほとりは生物の宝庫なんだ

わが故郷の春は命の誕生を原体験できるんだよ、知ってた？

春とはそういう季節である

然るに春の記憶は淡くはかない

娘が4歳になる年〜そう、ちょうど満開の桜が、あたり一面春色に染め抜いた頃のこと

自宅前の球磨川の散歩道路をふたりで手をつないで歩いていた

「パパあ、川ン中にはおさかなさんがいっぱいおらすとねえ?」

幼いわが子が尋ねる

「メダカさんがいっぱいおるけん、のぞいてごらん」

私が答えると、娘は私の手をぎゅつと握りしめて川を覗き込む

「パパあ、メダカさんおらつさんよお」

娘が残念そうに言う

「そらあ、学校に行つとらすとしたい」

私がベタな答えてごまかそうとすると

「彩ちゃんもメダカさんがつこうにいきたくい」

娘の無邪気な主張がかわいい

「彩はまだ小っちゃいけん、たくさんご飯ば食べんば学校には行かれんばあい」

私の意地悪な言葉に娘はちよつと悲しそうにうつむく

「ぼつてんが、彩は来週からクジラ保育園に行くんだけん、

よかた〜い」

私のフォローに機嫌を直して娘

「おともだちたくさんできるかなあ」



「そらあ、クジラ保育園にはお友達がいっぱいおらすけん、楽しかば〜い」

言いながら、娘が楽しそうに友達とブランコや滑り台で遊びまわる情景を思い浮かべた

父である私は思わず顔がゆるんだ

娘は澄んだ大きな瞳で私の顔を下から覗き込み、にっこりと笑った

満開のソメイヨシノの花びらが舞い、娘の姿を淡くやさしく包んでいた

娘の真つすぐに伸びた長い髪には、桜色の花びらがひとひら、ふたひら…

♪元気でいますか

大事な人は出来ましたか

いつか夢は叶いますか

この道の先で



笑っていますか
あの日のように無邪気な目で
寒い夜も雨の朝も
きつとあったでしょう?」

手寫葵「明日への手紙」より

娘は今年22歳になる。
父である私は58歳である。

【うしじま・まさかつ。会社員、人吉市】

戦争という非常事態には多くの国民の犠牲があるのはもちろん、お寺も例外ではない。その一端を旧坂本村結婦の「西福寺」の資料から探る。

お寺と戦争①

山本隆英

九月十八日

昨年二〇一五年九月十八日、西本願寺は東京千鳥ヶ淵の国立戦没者墓苑にて、全国から三千名余の参拝の下、第三十回「全戦没者追悼法要」を営んだ。また、全国一万二百の末寺に、この法要の開始時刻午後一時三〇分に合せて、梵鐘か喚鐘を鳴らすように呼びかけた。わたしが住職を務めさせていただいている西福寺では、浄土真宗の開祖親鸞聖人のご命日である十六日に毎月定例の法縁を営んでいるが、この九月は本山の呼びかけに添えて十八日に行う。今回は、鹿本郡来民の満州開拓団の悲劇（二七五名の集団自決）を紹介させていただいた。因みに、八月の定例法縁は六日の広島原爆忌に行う。

安保関連法案反対、平和憲法を守る、安倍首相退陣を柱として立ち上げた運動体「戦争に反対する八代の会」は、この十八日には早朝七時から八時まで、大きな文字看板を回転させながら、道行く人や車に呼びかけるスタンディングを行った。夜は「宗教と戦争」「七三二部隊」について、会員提案による学習会を開いた。スタンディングは九月九日から十九日まで毎日行い、その後は毎週金曜日等に行い、二月末で三十五回になる。もちろん法衣姿の僧侶も立つ。毎月十九日に近い日曜日に行っている集会とデモにも、法衣姿の僧侶の参加は毎回複数ある。それは、かつて教団が戦争遂行に貢献したのではないかという反省からの運動参加である。

九月十八日にこだわるのは、十五年戦争の始まり「満州事変」が勃発した日だからである。満州事変を中学歴史教科書は次のように記述している。

（東京書籍平成二十二年版）

一九二七（昭和二年）、中国では、蒋介石の率いる中国国民党が、南京に国民政府を樹立し、中国

の統一に乗り出しました。満州の日本権益を確保す

るため、満州を中国から分離することを主張してい

た現地の軍部（関東軍）は、一九三二（昭和六）年

九月十八日、奉天郊外の柳条湖で満鉄の線路を爆破し、それを機に軍事行動を開始しました（満州事変）。

満州の主要部を占領した関東軍は、一九三三年三月、清朝最後の皇帝溥儀を元首とする満州国を建国させ、実質的に支配しました。当時の内閣は、満州国

の承認に反対する態度をとりましたが、一九三二年五月十五日、総理大臣の犬養毅は海軍将校の二団に

よつて暗殺されました（五・一五事件）。これにより、政党政治は、その幕を閉じました。

その関東軍の参謀長が板垣征四郎であり、後には陸軍大臣になった人で、その大臣の感謝状だから紹介する次第。

感謝状の内容は、日中戦争（支那事変）の協賛金みたいなものだろうが、西福寺が単独で行ったのではなく、おそらく本山が呼びかける半ば強制的な寄付であつたろうと思われる。

御幸笛田

熊本市南区に御幸〇〇という地名がいくつかある、その地名の由来を訊ねる。

日清戦争で得た賠償金三億円余のほとんどを軍備拡張費に回し、列強に伍する国家体制を整えようとするが、国民に向けても士気を煽る必要から、全国各地で大規模な軍事演習を行う。その第六師団、第十二師団の陸軍特別大演習が熊本で開催され天皇が統監された。場所は近見近くの

部田村南方の畑の中だった。

部田村はこの光栄を記念して「御幸村」と改めた。熊本市に合併した後も、大字の上に御幸をつけて、御幸笛田、御幸木部、御幸西牟田（現在は御幸西）などの町名を残した。

御幸笛田と西福寺は全く関係ないのだが、天皇統監に



昭和13年に関東軍から贈られた感謝状

外来語から学ぶ英単語 (1) …… 藤原 宏

ステイ・ステージ・スタチュー・スタンザ・ステート・エステート
 stay stage statue stanza state estate (363)

印欧語根「**sta** (立っている)」がラテン語「**stare** (スターレ)、立っている」を経て、「**stand** (スタンド)、立つ・立っている」をはじめ、多くの同族語が生まれました。

stay (ステイ) … (立ったままにいる) とどまる・滞在する・ある状態を続ける

stage (ステージ) … (立つところ) 段階・時期・足場・舞台・上演する

statue (スタチュー) … (立てたもの) → 像・彫像

stanza (スタンザ) … (止まるところ) 詩の節

state (ステート) … (立っている) 状態・地位・身分

(しかと立つ・独立して) → 国家・州

(しかと述べる) → 公言する「**statement** (ステートメント)、声明」

estate (エステート) … **state** (状態) → 社会に おける身分→財産の状態、特に地所

「**standard** (スタンダード)、標準・水準」は「**stand** (立つ) + **hard** (ハード、しっかり)」が原義です。

「**stance** (スタンス)、姿勢・構え」・「**status** (ステータス)、地位・身分」・「**station** (ステーション)、駅・署」も同族語です。

モノ ・ ユニ ・ マルティ ・ ポリ
 mono uni multi poly (364)

前の2つ「**mono・uni**」は「一つの・単一の」を、後の2つ「**multi・poly**」は「多くの・重合の」を表す合成前綴です。

次はよく知られている合成語です。

「**monochrome** (モノクローム)、モノクロ・単色画・白黒の単調な」、「**monotone** (モノトーン)、単調音・単調さ」、「**monorail** (モノレール)、単軌 (鉄道) ・ 1本レール」、「**monologue** (モノローグ)、独自・独演劇」、「**unicolor** (ユニカラー)、単色 (の)」、「**unicorn** (ユニコーン)、一角獣」、「**universe** (ユニバース)、宇宙 (一つになって回転するもの)」

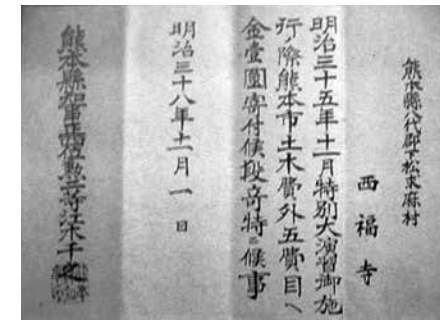
「**multicolor** (マルチカラー)、多種配色・多色刷りの」、「**multicast** (マルチキャスト)、多重放送の」、「**multipurpose** (マルチパーパス)、多目的 (の)」

「**polyp** (ポリプ)、隆起性病変 (多足が原義)」、「**polyanthus** (ポリアンサス)、(多くの花の意) クリンザクラ」、「**polyethylene** (ポリエチレン)、エチレンの重合体」、「**polygamy** (ポリガミー)、一夫多妻」など。

経った明治十三年には、明治政府から「薩摩軍討報獎金」四円が下賜されている。寸志金額を示す書付は探しあてることができなかった。

③寸志とは身分を取り上げてもらうため上部に貢ぐ金品のこと本来の意味。

【やまもと・りゅうえい。西福寺住職】



陸軍演習場造成の寄付へのお礼状

本願寺が織田信長の軍門に下りた後、何かにつけ権力に寸志を差し出すことで教団なり寺院なりが安堵されてきた。前に挙げた二つより前に、西南戦争に際しいち早く政府に寸志を届けている。戦争が終わってしばらく

本願寺の熊本教区の半ば強制的なものだったろう。



日本の経済主権が破壊されるTPP。
 国会で明らかにしたくても秘密保護法で真っ暗

「日本の農業。せまい日本でどうなる。自給率 39%はもっとも下がり、食の安全も心配。アベノミクスは失敗、TPPは農業だけの問題ではない。TPPからの撤退を迫る声は日々高まっています。」

ひろし…
 げっかん・ぎびよう

「罰帳」(『相良家文書』)に見る人吉藩の犯罪(上)

尾方保之

西浦村の検地役人への賄賂事件(1)

筆者は今年1月から3月にかけての「週刊ひとよし」で、「相良家文書」の「罰帳」に記録されている勘定所関連の犯罪と、それに対する刑罰について文化年間を中心で紹介してきた。最後に紹介したのが、文化十二(1815)年から十四(1817)年までの三カ年間に、上村お米蔵において三百俵ほどの米俵が盗まれるという大事件で、犯人たちは獄門・死罪を含む二十人近くが処罰されたという事件だった。

ところがこの事件と同時期の文化十三(1816)年には西浦(西裏)村で検地(免平均)が行われ、その検地役人に庄屋をはじめ村役人が米俵を賄賂として贈り、それが発覚して大処分を受けるという事件が起きている。

西浦村とは矢黒、永野、戸越、鹿目、田野村からなる一村である。この西浦村において、賄賂事件がどのように発覚し、どう処分されたのか、是非紹介したいとペンを取った次第である。

※人吉藩の検地(免平均)

人吉藩の財政と検地の歴史から見てみよう。

江戸時代、諸藩の財政はほとんど、農民たちの納める年貢に頼っていた。藩の収入を安定的に確保し、さらに増収を図るためには、検地を実施し田畑の面積や石高を再調査し、税率を厳しくして徴収するか、新田開発に取り組んで田畑面積を拡大するか方法がなかった。江戸時代の人吉

藩においても、新田開発を進めるとともに検地が何回も実施され、年貢の増収を図る取り組みがなされた。

人吉藩の江戸時代初めの石高は二万二千百石余(文禄五)1596

年(の検地)だったが、この石高が人吉藩の朱印高として幕府に公認され、幕末まで人吉藩の表高となった。

六分に当たる二万四千石ほどが年貢収入となっている。

しかし、江戸時代の初めから人吉藩でも新田開発が積極的に進められ、寛永十(1633)年や寛永十八(1641)年に実施された検地では新田高が約二万石になっていた。朱印高に近いほどである。その後、百太郎溝や幸野溝の完成によって新田開発はさらに進み、新田高が増加していった。それによって十八世紀初めの宝永6(1709)年の段階では、田畑面積五千八百町歩(水田三九三六町、畑二八二町)、新田高が三万八百石余(幕府には一万九千石余と報告)となり、朱印高を加えると総生産高(内検高)は五万三千石ほどになっていた。そしてその四割

その後は新田開発があまり進まず、田畑面積もわずかしこ拡大しかかったため、生産高も年貢高もほとんど増加しなかった。それどころか天候不順や災害が繰り返し発生するようになり、享保の大飢饉、宝暦の大水害、明和の飢饉では年貢が激減した。



相良家文書「罰帳」(広島大学図書館蔵)

藩の財政を維持するためには、増税するか大阪商人などからの借金し

追いつかなかった。

か方法がなく、臨時増税と借金が繰り返されることになる。十九世紀初めの文化三（1806）年の藩の借金高は一万五千両（銀二千貫余）となっている。これは当時の藩の一年間の経費に相当する額である。

藩は「儉約取締令」を繰り返し延長し、緊縮財政に取り組みとともに専売制の実施や法令の改正、検地の徹底による年貢の増収に取り組んだ。このような時代、厳しい藩財政の立て直しのため勘定奉行に就任したのが田代善右衛門政典である。文化十（1813）年のことで、西浦賄賂事件の三年前である。田代政典は八年後の文政四（1821）年、家老に就任。藩の財政改革に積極的に取り組んだが、天保十二（1841）年二月の「茸山騒動」で自害した。

村人たちは話し合い、庄屋をはじめ横目や上目付の村役人（所役）の取り計らいによって、検地役人の石盛以下野取、歩取、そして竿取（二人）に賄賂として、お米を贈ることを決議しそれを実行したのだった。村人たちは検地のための出費（出物）と賄賂のための経費を了解し、負担したものだと思われる。

これが露見しなかったら事件とはならなかったのだが、出費に納得しなかった村の武士（徒士格）岩浪七兵衛と寺田平右衛門が中心となり、村人から徴収した出物の総高と検地のために使った支出高（遣方）に相違

※検地（免平均）の方法

検地のことを「免平均」という。免とは年貢率のことである。

検地といえは豊臣秀吉が天正十（1582）年から、全国的に開始した「太閤検地」が有名。この検地は検地尺を六尺三寸とし、この六尺三寸四方を二歩、三百歩を二反とした。江戸幕府は六尺一分を検地尺としたが、人吉藩では六尺五寸四方を一步とし、三百歩を二反とした。（慶長十九年相良清兵衛による検地は二百五十歩を二反とした）

検地は検者、目付の立ち会いのものと、検地役の算者、石盛、野取、歩取、竿取（二人）が当たり、田畑の等級、面積、石盛を算定し、年貢を決めて検地帳に記録した、

があるので調査してもらいたいと藩へ訴え出たのである。その理由は、村役人を含め検地の賄方となった者たちが、あちこちで酒宴を開き、また検地用に徴収した経費を使って自分の品物を買調えている。そのほかにも疑わしきことがあるので調査してもらいたい、と数ヶ条（二十三条）の項目を挙げて訴えたのである。

徒士たちの訴えによって僉議がなされることになり、賄賂事件が発覚することになった。

この事件の概要を知るため、西浦村の元庄屋溝口祐左衛門裁許書を見よう。

申渡

西浦元庄屋

溝口祐左衛門

村の庄屋、横目、上目付の村役を始め惣組頭、触役、組頭も本陣に詰めて検地の手伝いを行い、検地役人の接待や食事の賄い方を担当した。村役人や村人にとって検地役の測量の仕方、等級や石盛の算定によって税率や年貢が左右されるため、役人の接待には気を配りもてなしを行つたに違いなかった。

一、事件の発覚と村役人の処分

文化十五Ⅱ文政元Ⅱ（1818）年六月、西浦の賄賂事件の判決が申し渡されたが、その裁許書によれば賄賂事件が発覚したのは二年前の文化十三（1816）年のことだった。

西浦村の戸越、永野、矢黒村において免平均が実施されることが伝えられ

其の方儀、去々子春其の所免平均に付賄方請込罷り在り候処、同村御徒士の者共より出物取結び高と遣方相違せしめ落着難き由にて糺し方願い出、僉議に及び候処、請込みの者共詰中所々にて酒宴を催し、其の外疑い筋証人を書載せ候て数箇條の訴訟申し出、其の向々相糺し候処、所々にて酒宴相催し候儀詰所より自分調べ物等出銭いたし万出物取集め高並びに遣い方の儀は何ぞ私曲筋の疑い相見えざる候に付右の段訴え出候者共へ申し聞かせ候処、又候岩浪七兵衛、寺田平右衛門より下見の砌より、石盛以下の足輕共へ賄賂せしめ候段申し出、是れ又相糺し候処、相違無きの旨一々を相誤り候。酒宴並びに自己の調物逆も出銭とは申し乍ら、

場所時節をも相弁へず、不慎の至りに候。其の上御大禁を犯し、殊に不実の帳面を差出し候儀、上を恐れざる我俣の働き不届至極に候。仍つて庄屋役召放し押込申付るもの也。

六月

徒士の岩浪七兵衛と寺田平右衛門たちの訴えに基づき、役所が「出物取結び高」と「遣方」を調べたところ、出物と遣方に違いはなく「私曲の疑い相見えず」となった。そこで訴え出た岩浪と寺田にそのことを申し聞かせたという。

すると二人は、免平均の下見の頃から検地役の石盛以下の足軽たちに賄賂が贈られたので調べてほしいと再度訴えた。

そこで賄賂について取り調べたところ、

ろ、庄屋たちは賄賂を贈ったことを認め謝罪したという。酒宴や調物の出費も必要だが、場所や時節をわきまえておらず不謹慎の至りである。そのうえ賄賂を贈るという藩のご大禁を犯し、それをごまかすために偽の帳面を提出した。これはお上を恐れず我が俣の働き不届き至極である。よって「庄屋役召放し、押込申し付るもの也」と申し渡された。

溝口祐左衛門は西浦村の庄屋役を召放され、三十日間の「押込」となった。押込みとは、郷士（足軽格）以下に科せられる謹慎刑で、門を閉ざさせて外出を禁ずるものである。庄屋と同じように役目召放しの上、三十日間の押込となったのは横目役の尾方万七をはじめ、賄方請込の四人となっている。もう一人の賄方、鬼塚清左

衛門は石盛に借金を融通したこともあつて四十日間の押込となった。

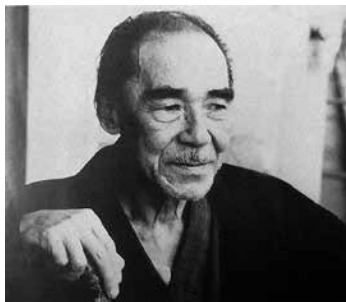
そのほか上目付で賄方であつた二人は役目召放しのうえ、七十日間の逼塞を命じられた。逼塞とは武士や僧侶に科せられる謹慎刑で、門を閉ざし日中は出入り出来ないが夜間は潜り門からの出入りが許された（『日本史用語辞典』）。二人の上目付は武士（徒士格）の身分だったためか逼塞となつたが、刑は二倍以上の期間となつている。他に鬼塚彦左衛門ら三人の徒士が三十日間の逼塞となつている。

【おがた・やすゆき、求麻郷土研究会、錦町一武】

小山勝清 生誕一二〇年特集

はじめに

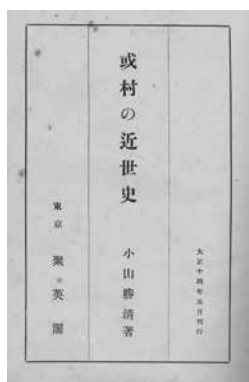
明治二九年（一八九六年）三月二十九日、球磨郡四浦村晴山（現・球磨郡相良村）でひとりの男の子が産



晩年の小山勝清
（『相良村誌 資料編』より）

まれた。小山勝清である。それから一二〇年がすぎた。

「小山勝清」と耳にただけでは、誰であるのか分からない人が増えてきた。一二〇年前に生まれ五〇年ほど前に亡くなっているの、それも仕方ない。『彦一トンチ話』や『それから』の武蔵』を書いた作家とだといえ、あの人かと思ひ出す人はかなりでくるであろう。しかし、小山の業績全体を知っている人は少ない。小山は児童文学・時代劇の作家にとどまらない思想家であつた。ここで彼の全作品



を並べるのは避けるけれども、小山は一種の天才であつた。そこで小山生誕一二〇年を記念して本誌は彼の特集を組むことにした。特集といっても全面的検討は不可能である。彼の業績はあまりにも広く深く、本誌ではその一部をなすに止まる。しかしながら、相良村で生まれた天才をとりあげることは本誌の任務である。初回は、初期の代表作『或る村の近世史』をとりあげる。小山は明言していないけれども、同書にいう『在る村』とは



併し、又、静かに熟視すれば、それは、只平面な、ビーロドの壁ではなく、諸所に、無数の、深い壁が入っているのを見ることが出来る。そして、其処へ近づいて行けば、それが、大小さまざま山の破れ目であることが解り、遂に、深い溪谷となつて現れる。其の溪谷をたどる時、人々は、初め



て、山のふところが、如何にも大きく、深いことに驚かされる。二日三日の行遊にては、路あるところすら尽くしきれぬ程、山は深く、谷は長い。在る谷は、その奥に、一つの盆地が開けていて、幾つかの村落が営まれている。是等谷々の水は、本流を市房山から、支流を五箇荘から発しているK川に集められ、まだ草原の多い盆地の平野を、縦横にうるおしながら、一つの山脈の接するところ薩摩境の大峻谷を通過つて、不知火海にそそいでいる。

佐七老人の村は、そうした谷の奥にある、小さな盆地にあった。人家は、わずかに五六十戸の小部落で、その附近に偏在している、幾つもの部落を合して、一村をなしていた。真に、山のふところに抱かれた青い村であった。一つの谷川が、村の中央を流れている。谷の兩岸には、古い椿が生い茂つて、澄みきつた水を、一層青く色どつていた。せまい土地とて、平地は多く田畑になっていたもので、人家は大昔、思い思いに山の斜面を切り開いたものらしく、一軒一軒が、小さな城郭のような古い石垣で積み上げられて、段々に、重なり合っていた。

以上である。相良村の状況が目に見え、浮かぶであろうか。K川は、なに川のことであろうか。それはともかく、

相良村にほかならず、同書を取りあげるのは相良村史の一面、ひいては人吉球磨地方の歴史の一部をみることにつながる。

同書は「盗人記」ではじまる。どきりとするタイトルである。「盗人」つまり「泥棒」の話から彼は書き始めているのである。その理由は同書を読めば直ぐに分かるけれども、彼の才能はそうした題名のつけかた（ネーミング）にも発揮されている。

「盗人記」の主役は佐七老人である。その冒頭を資料として引用し、まずは、彼の描く相良村、人吉球磨の姿をまずはみよう。小山の目には相良村、人吉球磨はどのように写つたのであろうか。引用にあつては、読みやすくするため、原書の聚英閣版でなく『相良村誌資料編一』所収の改訂版

を利用する。

※ ※ ※ ※ ※

《資料》

「佐七老人が死んだ。

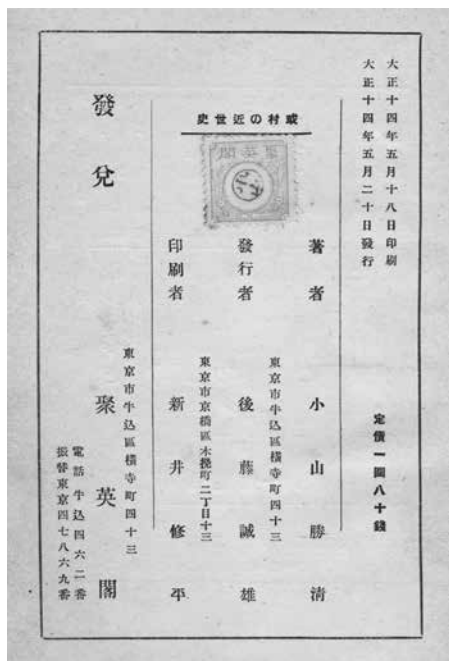
彼は、土着の百姓で、その村は南九州のきわめて辺鄙な地であつた。豊前の英彦山あたりでは、猶、巍峨たる姿を見せている九州アルプスも、南へ南へと走るにつれて次第に其の角を失い、衣を厚うして、此処、肥後と日向の境を分くる市房の連山あたりになれば、大空を斜めに引いた刃物のような山の端、鋭い歯の鋸のような峰の形、多面体の宝石のように冷たく光る山面、或は、名にしあう名山に峨々たる山の構えをも、只一樣に、厚く、やわらかな緑の肉に包まれ

豊かな情緒をふくんだ曲線が、南国の深い空をかぎり、地上に半円をつくつて、はるか薩摩境へとつづいていく。

一方、三方ヶ岳から別れた支流は、内大臣山、五箇荘、梶原山などの、広い山岳地帯をつくり、残りの半円を描いて、同じく薩摩境へと走っている。そして、其処に、一つの盆地が形づくられている。

此の盆地―昔は十二万と称せられていた。

其の平野を取り囲んでいる山々、それは、緑のビロードを張つた、緑の壁のようにも見える。しかし、それは決して、見る人の限界をはこばないだらう。人々の眼は、慈母のふところへと、抱かれ行くように、深い緑の中に吸い込まれて行く。



大正二四年（一九二五年）に小山はこのように相良村を描いた。参考のため、人吉盆地と相良村の地図をその資料として付け加えた。

小山は相良村の近代を どのように描いたか

（編集部）

本論に入るまえに、予備知識を確認しておく。それは明治維新にさかのぼる。

周知のように明治維新を機に、日本社会の構造は大きく変化した。そのことに誰も異論はない。武士が鬚（マゲ）を切りザンギリ頭にした例は分かりやすい。「マゲは武士の命」であったというが、そうだとすれば、それを切るとき、武士たちは、どうい

感覚におそわれたのであろうか。刃をとりあげられたときもだ。武士たちが相当にショックを受けたであろうとは推測できるが、具体的には、ほとんど分からない。いずれにせよ以前の価値観の否定がすすめられたのであった。しかも、それは、「身だしなみの美学」をはるかに超えて、日本の社会構造を根本的に変えるものであった。

明治維新の歴史的意味については、維新直後から、さまざまに検討されてきた。その量は膨大である。加えて、いまなお、その検討はすすめられている。学問の世界だけでなく、「幕末維新」論は日本人好みのテーマである。特に、坂本龍馬や西郷隆盛は人気者である。しかし、明治維新の歴史的意味を説明できる人は少ない。庶民

の生活がどう変化したか、というレベルになると、ほとんどの人が説明に窮するはずである。

歴史学では、戦前からの論争としては講座派と労農派の対立が有名であるけれども、両者の内容を知っている人は少ない。はじめて聞く人がむしろ大半であろう。両派とは別に、分析がある。現時点では、いまだに定説はないようにみえる。

「文明開化」という素朴な発想を出発点にすれば、維新前は「文明開化以前」ということになり、その場合の「文明」とは西洋文明ということになる。維新によって、旧社会が崩壊し新社会つまり西洋的社会の方向へ、日本社会は「転換」した、少なくとも「転換」を指摘したと要約できる。マゲを切るといった、西洋文化

の表面的な模倣からすべては開始した。法典編纂すら模倣であった。たとえば江藤新平はフランス法を直訳し、それですまそうとした。維新政府の首脳・大久保利通たちは自ら使節団を編成し、長期にわたって欧米諸国の状況を調べ、西欧化に必要なものを確認し、その導入をはかった。鹿鳴館のような滑稽ともいえることを

真面目に実行した。西洋化は一挙に進まなかった。激しい内部対立をひきおこしながら、それはすすめられた。小山は、そのプロセスの一面を『在る村の近世史』で書いた。「佐七老人が死んだ」と彼が書くとき、「佐七老人」は旧社会にほかならず、彼の死は旧社会の消滅と新社会の「確立」を意味した。ある人物の死を時代変

問題は、佐七老人がどのような人物であったのかだ。それを説明するためには「在る村」がどういう状況であったかを確かめる必要がある。

「人情の深い怠け者」と 「不人情の働きの者」

小山の表現力は卓越している。彼は「人情の深い怠け者」・「不人情の働きの者」という意表をつく比喩（アリとキリギリスに似た比喩）で当時の状況を説明している。彼によれば、「在る村」（相良村）は、

「もともとは、土地が肥沃で、天産物に富み、そのうえ、人口が希薄であった。」

化の指標にするのは小山の特権ではない。ビクトリア女王の死でイギリスの繁栄期の終了を示す場合とそれは同じである。『三四郎』や『こころ』で漱石がとっている方法でもある。

ところが、この状況は「他国人」（旧相良藩以外の土地の者）の移住（侵入）によって攪乱されて最終的には移住者の勝利で終わったのである。明治維新は激動のはじまりであった。球磨人吉は明治一〇年（一八七七年）の西南戦争の戦火がそれに加わった。西南戦争後、球磨人吉に移住者が押し寄せた。そのときのことを小山は書いているのだ。土着の百姓・佐七老人は旧社会である。「移住者」は新社会であった。図式的に言えば、そうなる。ところで小山は、移住者を

「自分の故郷を食いつめた人物らしく、大概は、着の身着のままの放浪者であった」

と説明している。そのうえで更に、

「生存競争の実践を経ているので、世を渡るには、働くこと、狡猾であることと、不人情であることが最大の秘訣であることを知っていた」

と言う。「土着の百姓達は、まずしい彼等を憐み、朝まだきから月が上るまでも野良を離れぬ彼ら小作人達を、誉めそやし、色々と情けをかけたやった。しかし、それは、虎の子でも飼っているようなものであった。：人一倍働く彼等は、少しずつ金を貯めて行った」と書く。

土着の百姓は「人情の深い怠け者」である（いわゆる「お人好し」を想起させる）。コツコツ金を貯めていた移住者（よそ者）に、結局は敗北し、田畑まで収奪されてしまう。そして、

ほとんどの地主は移住者（よそ者）という状況にまでいたる。相良村のものととの住民はよそ者に完全に敗北したというのである。小山の説明が史実に合致するかは、ここでは問わない。小山が相良村の歴史をどのように説明していることを確認すれば、ここでは足りる。相良村の人には否定したくなるような説明であらうけれども、小山自身がそのよそ者（移住者）の子である。彼の父・文郁は、熊本で生まれて「放浪者」になり、最後には、ムラの名望家になっている。この状況は、J・ハーバマスという「システムと貨幣による生活世界の植民地化」論に近い。

（編集部）

マイ・ビュー

子どもを真ん中にして

内田順子

満開の桜につつまれた春らんまんの佳き日に、子どもたちは入学式をむかえました。
みんな、かけがえのない子どもたち。

「かしこくなってほしい」

「たくましい子どもになってほしい」

「美しい心をもった優しい子になってほしい」

親の願いはみんな同じです。

子どもたちも新しい出会いの中から新しい自分をみつ

大きく豊かに成長していきます。

新一年生は、不安と希望を胸にピカピカの制服に身を包み大きな鞆を抱えて正門をくぐります。ぜひ、学校に行くのが楽しみになるような言葉かけをしたいものです。子どもも気持ちを大切にして励ましてあげることが自立につながります。子どものことは学校で、勉強のことは塾にやっておけばいいという気持ちでは子どもを育てられません。家族や家庭が最高の教育者です。子育ては手間ひまかかることです。が、手作りの子育てが大切ではないでしょうか。食べること、着ること、寝ること、そして勉強することすべてに家庭や父母の力が必要です。

新一年生は新しい環境になりましたので、学校でどんなふうに過ごしているのか、子どもの話をじっくり聞くようにしたいものです。心配なことがあるときは、先生に伝えることも大切だと思います。

いま、私たち大人は、複雑で厳しい社会の中に生きています。日々の生活では、怒りたくなることもあれば苛立つこともたくさんあります。そんな気持ちが理由もなく子どもに向かつてしまうことがあります。そんな自分が自分で嫌になることもあります。大人としても幸せを感じるひとときをみつけないものです。

私が幼いとき、母から、近所の花屋さんで「好きなお花を買ってきて」といわれて、よくお使いに行っていました。色とりどりの鮮やかな花が咲き誇り、「どのお花にしようかな」と迷い、なかなか決められず、たくさんの種類の花を買ってしまいました。そのとき、お釣りがほんの少しになったことに気がつきました。

「あつ、たくさん買ってしまった。残りのお金がなくなつた……どうしよう。こんなにたくさん買つて、お母さんにしかられる。」

ドキドキしながら、大きくなった花を両腕に抱えて帰つ

たものでした。その花をみたたん母は、

「まあ、きれいなお花ねえ」

とニコニコして私をむかえてくれました。ほつと安心。母が喜ぶ姿がうれしくてうれしくてたまりませんでした。母と一緒に花を活けて部屋中が明るく幸せな気持ちになりました。わが子に優しく笑顔を向けてくれた母もきつと幸せな時間だったと大人になって懐かしく思い出します。一度そんな穏やかで優しい時間に出会うつと、また、そんな時間に出会いたくなる。何回かやっているうちに「好きな自分」に会えるコツもつかんでくるものです。

子どもたちが、夢と希望をもつて、きらきら輝く瞳をくもらせないように、子どもを真ん中にして父母や保護者・地域みなさん・教職員が手を取り合つて、子どもの生命と人権を守るために共同の輪を広げていきたいものです。

未来を創る子供たちのがんばりをいつも応援しています。

【うちだ・よりこ。教員、八代市坂本町】

マイ・ビュー

極私的・うどんの話

上村和代

「うどんをモチーフにしたマスコットキャラクターを募集しているらしいですよ」

昔、郷里の香川県で印刷関連の仕事をしていたとき、昼休みに後輩社員が言い出したことがあります。入選作には賞金が出ると聞き、遊び半分、社員みなでキャラクターを考えてみることにしました。午後のお茶休憩になり、社長が席をはずしたのを見て、各々がラフスケッチを見せあうと…。

「先輩。コレって…麺？」

言い出しつぺの後輩が一枚のラフスケッチを見て固まつて

いました。うどんの入った丼にカワイイ目鼻がついていたり、頭が丼で胴体がついたキャラクターの中に、ただ一つ、柱状の体に顔と手足がついたイラストが。

「えっ？ うどんがモチーフやろ？」

五人いる社員の中で私ひとり、うどんの「麺」をモチーフにしていたのです。

このことがあつてから時々、デザイナーやイラストレーターのみならず、一般の人にも「うどんをモチーフにしたキャラクターって言われたら、どんな姿を想像します？」と聞いていました。結果、ほとんどの人が丼に入つたうどんを擬人化した姿を思い浮かべていました。でも、私と同じように、うどん麺を思いつく人もゼロではありません。つまり、私を含めた何割かの人にとって「うどん」とは、「うどん料理」のことではなく、「うどん麺」そのものなんだと思います。このアンケートは、香川以外では聞いたことがないので、

他県ではどうかわかりません。まあ、全国的に見てもうどんを含めた麺料理のPRに出て来るゆるキャラのほとんどが井に目鼻、手足タイプなので、九割がたは井の絵を描いてくると思いますが。



香川県は、地元のタウン情報誌が起こした「讃岐うどんブーム」に行政が上手く乗っかって、成功した例です。日本で一番狭い県でもあり、地域間の食文化の差がそれほどないこともあって、全県挙げてうどん一本で押せたのもよかったでしょう。今では、連休ともなれば県外からの観光客で長蛇の列ができるうどん屋さんもなくありません。おかげで香川県出身と言っと、「やっぱりうどんが好きなんですか?」「香川の人って、毎日うどんを食べるってホント?」と聞かれるほどに「香川＝うどん」という印象が浸透しています。そうなってくると、「香川のうどんも美味しいでしょうが、うちの地元の○○うどん

んも美味しいですよ」とか「この辺りにも美味しいうどん屋さんがありますよ」と教えてくださる方も多いです。

熊本に来てからは、県内だけではなく九州各地の美味しいうどんの話聞きましました。長崎の五島うどんは有名なもので知っていましたが、大分・佐伯の「ごまだしうどん」や、宮崎がうどん屋が多い県だと知ったのは、わりと最近のことです。中でも福岡の人からは「香川のうどんは、硬すぎます。うどんにコシなんていりますか?それに、日本のうどん発祥の地は福岡ですよ」と、お叱りを受けたことも。(私に言われても困るんですが…)

教えてもらったお店の何軒かには行きました。どちらのうどんも美味しかったです。基本的に麺ならなんでも好きですので、太くても細くても、硬めでもやわらかくても、うどん料理ととらえれば、大抵美味しくいただけます。香川に比べると、お値段が多少高めに感じますが、それは香川が安すぎるということなので、気にしないようにしています。

ただどうしても引かかるのは、「ぶっかけうどん」の上に、なんやかんやと具を山盛りになっているお店があるところ。

そもそも「ぶっかけうどん」とは、文字どおりうどん麺にダシを直接かけて食べるシンプルなうどんです。元々は醤油をかけて食べる「醤油うどん」という名称が、登録商標の関係などから広く使えなくなり、考えだされた苦肉の策のメニューなのですが、今では讃岐うどんの代表的な食べ方になりました。

「ぶっかけうどん」は、麺を味わうものだと思っているので、上にのせるのは薬味だけでいい。あまりいろいろな具をのせると邪魔と感じてしまいます。たとえるなら、



美味しいお米を炊いて、塩むすびで味わおうと思っていたのに、中から味の濃い肉とか海老の天ぷらとか出てくるようなもの。ガツカリすると思うのです。肉が乗ったうどんが食べたいなら、肉うどんを頼めばいいし、天ぷらと一緒に食べ

たいなら天ぷらうどんを頼めばいいのに、なぜ、ぶっかけうどんにのせるかなあ……。百歩譲って別皿でくるならまだしも、麺に直にのせたら味がうつるじゃないか。ごちゃごちゃ載せなくても、十二分に美味しいよ!みんな、もっと麺のもつポテンシャルを信じてよ!と、うどんとは麺そのものと思っている私はときどきイラっとしつつ、各地のうどんの違いを楽しんでいます。

そんな私が現在、ひそかに楽しみにしているのが、二三年前に八代のラーメン友達から聞いた「球磨郡内に、うどん好きが高じて香川の店で修業した人がいる」という話です。修業はすでに終えてるらしいので、開業されるのなら、ぜひ人吉市内か球磨郡内にして欲しいです。そして、春の山菜、夏はアユなどの川魚、秋冬はイノシシやシカなどのジビエ……といった四季折々の球磨の食材を使った「球磨オリジナルうどん」を展開してもらえたら、きつとそれ目当てに日本中から人吉球磨を訪れる麺食いさんたちがいるのではないかと。いや、いるに違いない!と、そんなことを考えています。

【うえむら・かずよ。水俣市】

鉄筆・骨筆

——これらは死語か？

鶴上寛治

ガリ版刷りはサラリーマンの必須技術だった。今のパソコンだ。ヤスリ盤に口ウ原紙を乗せ、鉄筆で字や図を書きそれを謄写版で刷る。それにしてもあの原紙、ヤスリの上で細い鉄の筆先の圧力に耐えて破れず（たまには失敗

に何枚も重ね、これで力強く書き複数の同じ文書を作る。市町村の役場の戸籍係は、戸籍をガラス筆で手書きしていた。私の親たちの世代（明治末〜大正前期）は石盤（これがノート）に蠟石で筆記していたそう。次を書くとき、前のものは消されるから一生懸命覚えねばならず、記憶力増進には効果的だったろう。

に存続しているのは皮肉だ。書家で市販の筆ペンで作品を書く芸術家はなからうが、そんな革命的（？）な書家が現われるかもしれない。だって、書道パフォーマンスで使う大量の墨液——あれは硯で墨を磨りその墨液を集めたものではなさそう。市販の墨液か？

だったら筆の方も許されるはず？

として破れ、全部書き直すことも）、その丈夫さに敬服。佐藤秀夫著『学校ことはじめ事典』によると、エジソンが発明した mimeograph を改良して日本の堀井新治郎が1894年に完成させたもので、約60年にわたり日本国中で重宝がられた、とある。また、樹脂製だったろうが骨筆という物もあった。記録用紙とカーボン紙を交互

毛筆・鉛筆はまだ健在だが、一世を風靡した万年筆の余命はそう長くはなさそう……。万年筆を愛用した作家で「この本を書きあげるのに、万年筆を5本使い潰した」と、あとがきに書いていた人もいる。江戸時代の万年筆＝矢立、あれは良くできているが、今は使う人はなさそう。竹筆は書家などが特殊な場合に使うのだろうが、そのためマンガ家を使う鉄ペンとともに

現在日常生活で、一般人が多用している筆記用具はボールペンだろう。しかし、それもしだいに影をひそめ、この文章のようにトナーで印字、いや、画面に文を書き、用が済めば消されて文字を残すことがなくなるのでは？ 当然字体・字形の個性などは消滅してしまふ。悪筆家にはありがたいかも知れぬが、何だかさびしい。つけペン——ゴメン、その存在を忘れていた。

【つるかみ・かんじ。人吉市】

材料

- ・ツクシ：適量 ・ふきのとう：適量
- ・天ぷら粉：適量 ・氷水：適量

☆調理方法

- ①ツクシのはかまをはずし、水洗いをし水気を切る。食べやすい長さに切る。
 - ②氷水に天ぷら粉を入れ混ぜ合わせる。
 - ③2の天ぷら衣に和えて、180℃の油でカラッと揚げる。
- ※かき揚げの場合はアク抜きをせず、はかまを取り除くだけでOKです。



☆ツクシに含まれる主な有効成分とその働き

アルカロイドを多く含むので、大量摂取は避けたほうがよいとされています。ツクシにはカロテンがたくさん含まれています。ブロッコリーや芽キャベツ、オクラなどより多い。また、カロテンだけでなく同じように抗酸化作用が強いビタミンEも多く含まれており、野菜の中ではトップクラスの含有量となっています。

季節感を味わうという意味で、茶碗蒸しのトッピング・佃煮・パスタの具としても使えます。

今回はツクシだけを使ったかき揚げでしたが、人参・玉ねぎなどと一緒に揚げてもおいしいですよ！

混ぜる具材は、お好みで…。色んな組み合わせで楽しんで下さい。

【もりや・ひろみ。八代市坂本町】

里山の恵みをいただく①

ツクシのかき揚げ

森屋 浩美

☆採取場所・処理

ツクシは、日当たりの良い傾斜面や休耕となっている畑や原っぱで採取できます。農薬がかかっている場所等は避けたほうが良いと思います。

採取して持ち帰ったツクシは、洗う前に新聞紙などの上にひろげてはかまをとりま。あくが強いので、指先と爪が汚れます。収穫したその日か翌日には下処理しましょう。

☆選ぶポイント

ツクシの頭の部分がしっかりと締まっていて、まだ胞子を散らしていないものを選びます。開ききって緑色の胞子がなくなっているものは枯れる手前で、茎も痩せてしまっています。

また、はかまとはかまの間隔が短いものの方が成長過程にあるものでおいしいです。

☆下処理・アク抜きとゆで方

はかまはツクシの葉にあたるもので、ゆでても繊維質でかたく食べられません。

沸騰した湯の中にいれ、再び沸騰してから10～15秒ほどゆでて冷水に放ち冷まします。

ゆですぎると柔らかくなり過ぎるのでさっと火を通す感じです。後は数回水を取り替えあくを抜きます。

美味しい大根ができる畑

上村雄一

ドバイ

アラブ首長国連邦を構成する首長国のひとつ、ドバイ首長国の首都がド



バイだ。中東屈指の貿易、金融、リゾート地、あのドバイだ。

ドバイは石油の埋蔵量が少なく石油依存経済からの脱却を志向せざるをえなかった。その志向の結果が現在のドバイをもたらした（GDPに占める石油産業の割合は1パーセント）。その地が、どのようにして現在の姿に変化したのであろうか。それに関心をよせるのも悪くないが、ここではそれに触れない。

砂漠と山岳地帯に囲まれた亜熱帯気候の地である。夏冬の二期で、11月から3月までが冬で、そのほか夏だ。冬に激しい砂嵐にみまわれる。

砂漠に隣接する以上、それは当然のようにみえるが、ドバイは砂を大量に輸入している。砂漠の砂ではドバイが必要とするコンクリートを造れないからだ。ドバイはせまい土地を補うためにいくつかの人工島を造った。その造成のためには大量の砂が必要で、砂を輸入しつつ、ペルシャ湾の砂を取りつづけていた。大量の砂の採取によって、ペルシャ湾、ドバイの海岸線は変化するだろうか。世界中の目はそこにも集まっている。砂嵐に苦しみつつ砂を求めてやまない都市、それがドバイだ。

ドバイは特殊であろうか。規模は違うが、日本も砂を輸入していた。それは高度成長時代の話ではない。バブル崩壊後の1990年代でも年間300万トン以上の砂をオーストラリア、中国などから輸入していた。

300万トンといってもイメージできないが、積載量10トンの大型トラックで1ヶ月に2万回（1日に833回）運んだとしても、15ヶ月ほどかかる量だ。国道219号線を1時間に35台のトラックが通行する量だといえ、イメージが浮かぶかもしれない。しかも、これはあくまでも輸入していた砂の量である。これに国内で製造した砂が加わる。

建物は砂でできているし橋もそうである。およそ、コンクリートを材料にしている製造物はすべてそうである。コンクリートは、一般に、75パーセントの砂・砂利、15パーセントの水、10パーセントのセメントで構成される（標準的割合）が、どのような割合が最適であるかを知るためには砂の特性を知る必要がある。砂の特性研究



は土木建築業者にとって最重要の課題のひとつである。砂は地質研究者だけでなく土木業者もそれゆえ研究している。もちろんそこには費用が投下される。砂は自然物であるけれども、

採取行為など人間の手を加えると商品つまり取引の対処物になり、その価格は需要と供給にしたがう。商品となることから違法採取も生じる。八代海でも違法に砂を採取する例があった。砂はありふれているようにみえるかもしれないが、実際には有限で、それゆえ、商品になる。

砂の動き

砂のメカニズムについて、それほど研究は進んでいない。砂浜は消滅しつつあると指摘されているけれども、その原因は厳密には解明されていない。もちろん、まったく分析されていないわけではない。波・地形（傾斜）・波の方向・潮の干満の具合が砂浜の形成に関係していることなどは認識されている。人間の力でコントロールでき

ない側面がそれらには多く含まれているが、まったく手出しができないわけではない。浚渫で砂浜が消滅した例を人間は知っており、そのための対策も講じてきた。「養浜」も実施されている。砂漠化のメカニズムもわかりはじめている。薪の過剰調達、過剰放牧、過剰耕作などの人間の直接活動が砂浜現象の要因になっていると概ね推測できるまでになっている。

もちろん、すべてはそれほど単純ではない。中国はすでに30年以上にわたり砂漠対策を講じているけれども、成功していない。むしろ、北京周辺の砂漠化は進んでいる。ものごとを理解するためには、そのメカニズムを知らなければならぬ。これまで、砂は地質学者の研究対象であった。あるいは建設業者の関心事であった。

砂の雷給

川は水を流すだけではない。さまざまなものを流す。岩も、小石も、砂も流す。それらが流れなければ、下流は土砂だらけになって河床がひくくなり、いままで見えなかった岩などが顔を出しはじめる。砂の流れを人為によってせき止めれば（具体的にはダムによって）、せき止めた箇所（具体的には、ダム）の上流では砂が堆積し河床が上昇し、以前は見えて、岩が砂に埋まってしまふ。他方、せき止めた箇所の下流には砂が供給されず、河床が下がる。河床が下がると、それまで見えなかった岩がみえるようになるだけでなく、川岸との落差がひらき川岸の木の根が剥き出しになり、倒れはじめる。そのサイクルが回転し

はじめると、川岸の崩壊にいたる。山の斜面の基礎が抜かれ、斜面の崩壊にいたる恐れがある。砂が堆積していたら、それをとればいいだけというわけではなく、砂が供給されずに痩せてしまった場所に砂を供給しなければならぬ。ドバイはペルシャ湾の砂をとったが、その穴埋めはしていない。球磨川も同じだ。

大根畑

50年ほどまえ、荒瀬の河原には大根畑があった。上流からながれてくる砂でできた畑であった。そこでできた大根は美味しかった。山の栄養が砂にまじっていたのかもしれない。流水には栄養が含まれていて、自然の肥料になった。流水はゴミではない、うまく利用すれば宝になる。川は用水路

ではない。水がながれるなら、それでよいというわけではない。川は畑をつくる砂をはこぶ。それは川の自然の作用で、その費用は発生しない。車で運ぶ必要などない。川といえば、鮎などの川魚をおもいだす人がほとんどであろう。それは、それでよい。鮎など魚も川の宝物だ。しかし魚だけでなく、美味しい大根も川の宝物だ。

美味しい大根は流れてくる砂がつくる。砂はコンクリートだけでなく、美味しい大根もつくる。

【うえむら・ゆういち（編集部）】

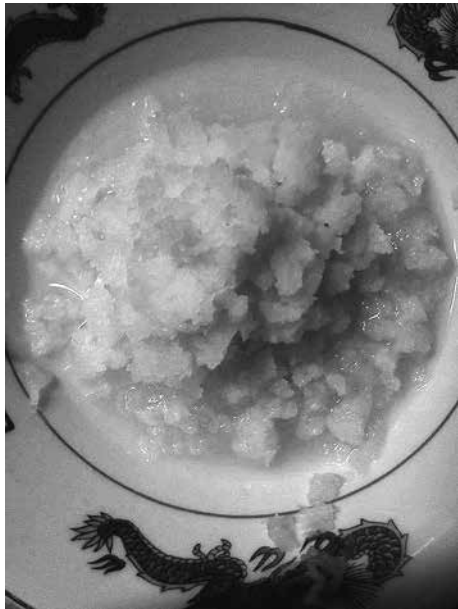
くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

寒空にふと出て探す冬北斗ぶれなく冴える星を見たくて
春雨に小枝の先の白玉を蕾なりせばいかな花咲く
三原 竹二
さりげなく別れをつげし旧友の笑顔がのこすりんどうの花
山椿 花花花の首飾り幼きころの香りゆたかに
坂本 ケイ
アベは外われらは内と豆をまく手づくり恵方で夫と酒酌む
友と酌む誕生祝いの酒うまし喜寿を迎えて沸くよろこびよ
上田 迪子

島人は金も時間も人生も基地前におく平和求めて
八十路なる父母は試練の冬越えて水は温みしようやくの春
宮川しのぶ
ことはじめ 病院通いうれしくも薬減らすと医師のことばは
日の光降り注ぐとき外に出て野道歩けば土の匂いす
宮原 征子
人吉のつるつるの湯に身を沈め指折り数え短歌に挑む
寄りて立つ基盤が違ふアベ総理何を言っても聞く耳持たぬ
胸川きよし

「戦争に行く道今こそふさがねば」の澤地発言に力湧くる
署名しても変わらぬの声聞きつつも戦争阻止に今日も仲間と
上田 精一



不知火海の自然・生活

(1)

不知火海と私

自然観察指導員熊本県連絡会会長 つる 詳子

宮崎で育った私が、一体いつ頃から不知火海を母なる海として見つめてきたのか定かではないが、八代海という呼び名が最初にあったように思う。遠い記憶は、やはり「水俣病の発生した海」である。なので結婚して八代に住むと聞いた時、父母は当然のごとく反対したが、それは殆ど気にならなかった。しかし、実際八代に住んで、八代海を目の前にした時の記憶は、鮮明に覚えている。目の前に泥の干潟が広がり、宮崎の水平線を望む青々とした海、打ち寄せる波を見て育った私には、目の前のそれが海だと教えられても、俄かには信じがたく、八代に来てから一番最初に受けたカルチャーショックであった。この狭い泥のような海を見て暮らすのかと、急に故郷の青い空と青い海が恋しくなった。

2番目に干潟が私に強烈な印象を与えたのは、ある日その泥の広がりを見つと見てみると、何やら、表面で動くものが目に入ってきた時である。無数のカニである。見渡す限りに干潟表面を覆い尽くしている。何これ〜？と、ただただ啞然としてその姿を見ていた。宮崎の砂浜を歩いても、時折でてくる小さなカニや貝殻拾いを楽しむぐらいで、このカニがうじゃうじゃいる様子は、少々おぞましくも目が離せない光景として記憶に残っている。そのカニがヤマトオサガニだと知ったのは、ずっと後のことである。

その後、元々野外で遊ぶのが好きだった私は、熊本の山、川、海を子供と一緒に遊ぶうちに、自然観察の世界にはまり込み、ある時初めて干潟で観察会を開いた。下調べの時に初



めてみる不思議なもの―干潟の上をレースのようなヒレ（側足）をひらひらさせて、優雅に滑るように進むウミウシ、プヨプヨした寒天のような訳が分からない塊、潜望鏡のような長い目を干潟表面に出してあたりを伺うオサガニ、抱えた貝殻で身を隠しながら歩く怒った鬼のような顔をしたキメングニ、干潟表面にいつぱい突き出したゴカイの棲せいかん営……。干潟はまさにワンダーランド、私を魅了するに十分だった。しかし、観察会を重ねるごとに、これらの生き物はその種類も数も減少していく。これが、私が球磨川のダム問題に目を向けたきっかけの一つである。

それからは、海の漁師さんたちの話を積極的に聞きにいったり、実際に船に乗せていただいたり、干潟の観察会だけでなく生き物や堆積物の調査など積極的に不知火海と関わってきた。そう…知らないうちに、不知火

海と呼んでいる自分に気が付いた。八代海というより、不知火海という名称に自然とともに歩んできた人々の歴史や、そこに生きる生き物の豊かさを感じるのである。

そんな不知火海の物語を、少しずつ紹介していきたいと思う。

不知火海

不知火海は、面積約1200平方kmの閉鎖性水域であり、南北約70km、東西は6〜16kmと南北に細長い地形

をしている。そこに、1級河川、2級河川等47の大小河川が流れ込んでおり、球磨川が、唯一の1級河川であり、1800平方kmという流域面積は、不知火海に流入する河川の総流域面積の60%を占める。

グーグルやヤフーの航空写真をみても分かるように、八代平野の東に並ぶ山々は竜峰山の北から球磨川を遥拝堰あたりまで伸びて、そのまま、高田、日奈久、芦北にかけて一直線上に並び、スパッと離れたように平野部に落ち込んでいる。日奈久断層だ。また、同じように天草の東側を見ると、戸馳島、維和島、天草上島等々の東海岸も一直線に並んでいるのが分かる。不知火海はこの断層に大きなずれが生じ、陥没してできたと言われている。



25年ほど前に天草の山道を歩いていて、道端の砂礫層の露頭を観察したことがある。その時一緒だった地質の専門家に、球磨川が運んできた砂だと教えていただいたが、球磨川の壮大

な歴史とその力に敬服した。そこから10mぐらい離れた時に、ガラガラと大きな音を立ててその露頭が崩れ落ち、度肝を抜かした経験とともに、その時のことは鮮やかに記憶に残っている。

断層のずれにより不知火海が誕生した後も、球磨川やそこに流れ込む中小の河川は不知火海に砂を供給し続け、遠浅の広大な干潟を形成した。干潟は不知火海の北部に集中しており、南部や天草東海岸は磯海岸が多い。干潟の面積は昭和52年には約4000haあったが、現在は約40%が消失したと報告されている（日本水産資源保護協会資料）。しかし、この現存する干潟は依然として、不知火海に生息する多くの生き物の産卵場、生息場となっており、不知火海

の漁業を支えている。過去、何度か天草の漁師さんの家々を訪ね、天草の漁業について聞き取りをしたことが

あるが、その時も球磨川や河口干潟から受ける恩恵や影響が如何に大きいか、実感させられた。

このことについても、おいおい紹介していきたいと思う。
【つる・しょうこ。八代市】

球磨川私論①

追 想

元村順宣

荒瀬ダムの撤去工事ははじまる直前のころだが、提案する者があってダム建設前の球磨川の姿を図面に描いた。地域の人たちの助けをいただきながら、瀬・淵・岩・渡舟・川岸の記憶を図面に書き入れた。瀬戸石ダム下流から遥拝堰までの区間を描いた。撤去工事ははじまるとダム湖

がなくなつた。渇水区間には流水がもどった。図に描いたとおりの昔日の球磨川がしだいに姿を現しはじめた。感激した。河床の堆積土砂はまだ残っているけれども、年月を経れば元の状況（地形）に戻るであろう。55年ぶりに球磨川の「復活」を目の当たりにするとき、図に描いたとき

とは別の様相で球磨川に対する記憶がよみがえってくる。それを述べよう。

水を飲んでみた

河口から21キロの地点の集落（下鎌瀬）に私は住んでいる。球磨川全体からすれば下流域になるけれども、まとまった田畑があるわけがなく、水の流れは速い。そして速いだけでなく清流でもあった。川漁師たちは「アカクリ」で川の水を飲んだ。子供たちも飲んだ。のどが渴けば、すぐに喉をうるおせた。私たちには、球磨川はそのような存在であった。

岩で身体を温めていた

川は泳ぎ、魚を追いかける場であった。いつも川で遊んだ。しかし、夏でも長時間にわたって川のなかにいると冷える。唇はムラサキ色になる。そのときは、岩にはいつくばった。岩の熱で身体を温めたのだ。身体があたたまると、ふたたび、川に入った。冷えると岩であたたまる。それをくりかえした。身体は真つ黒に焼け、やがて背中などの皮がむけはじめる。しかし、いつでも球磨川で泳げたわけではなかった。水温が20度を超えたとき、泳いでよいとの許可がでたと記憶する。

宝さがし

河原にはさまざまな石が転がっている。

る。そのなかから特徴のある石をみつけだし、15個ほど先の川中にそれを放り投げる遊びをした。潜って、その「宝の石」をみつけ回収する遊びである。それは、だれが最初に石を「回収」するのかを競う遊びであった。水泳（潜水）の腕はそうやって自然にみがいた。

上級生の許可

川幅は50メートルほどあった。そこで遊んだ。川の中央に、子どもが二人ほど立てる岩があった。その岩を「ウナツキ」とよんでいた。水深は2メートルほどであったろうか。先に触れたように急流である。泳ぐと45度くらいの角度で流される。川では直線で泳げないのだ。流されて「ウナツキ」を中継して対岸まで泳いだ。それは、上級生の「許可」がなければできなかった。

た。上級生は下級生の安全をみきわめるという責任感があった。上級生の「許可」がでるとうれしかった。そして、それは勲章であった。

下校

小学校は1500メートルほど上流にあった。上級生のなかには、泳いで下校するものがいた。下級生はカバンと服をもたされた。上級生はいばっているだけではなかった。子どもたちは川で遊んだ。水の事故（水難事故）は一度もなかった。先生や家族（保護者）の気配りもあった。しかし、上級生の指導もあった。上級生は下級生に、あぶないことはするなど命じた。それは指導であった。指導してくれた上級生はすばりしかった。

ふと思いだした。小学校6年生の

とき、同じクラスの生徒全員で「水泳競争」があった。私の住む集落（下鎌瀬）の九人の生徒が上位を独占した。上級生の「指導」の成果であろうか。



出合い

記憶はさかのぼる

父の仕事との関係で、私は、福岡県八幡市黒崎（現・北九州市西区黒崎）で生まれ育った。戦火がはげしくなっていくにつれ、アメリカ軍戦闘機の爆撃が強まった。それを避けるため父の実家（八代市坂本町下鎌瀬）に疎開した。小学1年生の8月であった。

当時は、鎌瀬駅はなく、瀬戸石駅

で下車した。これから渡し舟を利用して対岸（球磨川右岸）の楮木集落に渡った。これが球磨川との最初の出合いである。雄大な自然に圧倒された。それまで住んでいた、煙突しかみえない八幡の街とはちがう世界であった。瀬戸石地区と楮木地区をむすぶ渡し舟は長くつづいた。先年、舟頭さんが引退し、渡し舟はなくなった。

道路も現在とちがっていた。小さな里道（部落道）しかなかった。徒歩

でしか通れない道だった。杉山、竹林、雑木林に道はおおわれていた。うすぐらい道であった。

父の実家に向かう途中に親戚の家があった（三坂集落）ので、そこに寄った。蒸したカライモをいただいた。こんなに美味しいものがあるのかとおもった。八幡で味わえない「贅沢品」であった。親戚が自前で作った自家製の漬物も美味しかった。それ以来、私は漬物好きになった。

楮木から、中津道、三坂といった集落を経て、ようやく、下鎌瀬（父の実家）についた。このときから球磨川とのかかわりがはじまった。

【もとむら・よしのぶ。八代市坂本町】

失敗してよかったのかも

前田一洋

「シエ」と「ジェ」
の撲滅作戦授業

「シエッシエやあつてどっかつか」
「？」

昭和32（1957）年の四月、八代市立金剛小学校に赴任し、担当する四年生の教室に行くなりこの質問。「あー」、「シエッシエやあつて、おろん達が言うとの分からっさんとシエー」「ほんだいがほんだいが」。

思えば今から約60年前、当時の「やつちろ弁」は、残りがまことに良

かった。おかげでいささか戸惑いもしたが、自分が使ってきた球磨弁と比較する上からも有り難かった。よし、これから先は子供たちを先生にして、八代弁を習おう、そう心に決めたのだった。

往時は人の長距離移動は汽車しかなくて、行動半径も至って狭かった。従って50km程度しか離れていない八代でさえめつたに行くことはなかったのだ。そのために初めて聞いた「やつちろ弁」の新鮮で珍しかったこと。わが球磨弁とは、まさに大きく違っていた。

ことに奇異に感じたのは、どの子も

「せ」と「ぜ」を「シエ」「ジェ」という具合に発音するのだ。例えば私に呼び掛ける時には、「まいらシエッシエー」であり、「廊下にジェンの五円ふつこけとつた、だがつたいよ」

ちなみに金剛地区は、江戸時代にできた広大な干拓地である。そのため民家は点在、子供の弁当に入れたやる「シャ（おかず）」が売ってある店までは至って遠くて少ない。

そこで親たちは、毎日五円ずつ持たせてやるのだ。そして四時間目が終わると、子供たちは我先に学校近くの「いけらミシエ（池田店）」に走って行つて並び、そこで紅ショウガだとか塩こんぶを買うのであった。それらのシャは少量でも辛味や塩気が強いいため工面して食べば、おかずとしての

役目は果たす。

「シエッシエーおがジェンのふつたつた」「おかず代じやろたい」「はい、シャば買うジェンれす」「ほら、こけ拾ろつきてある。早よ店に行て並るばんばんたい」「はい」。

○
ところで自分は、教育学部を（やつとで）卒業仕立ての新米教師とは申せ、一介の先生である。そういう観点からすれば、この聞き慣れないシエやジェの発音を放置するわけにもいかない気がした。そこで先輩方に相談してみたところ、どの先生も一様に「そら、シてんシエンでん同じこつたいが」とのこと。

こうなつたら、まだ第二次反抗期の燃え残りに火がつかぬはずがない。さっそく工夫に工夫を重ねて



八代市立金剛小学校5年3組。昭和34（1959）年2月

考え出したのが、「せ」をスエに「ぜ」をズエに分解。それをホームルームの時間に繰り返し言わせるのである。少し慣れてくると次第に早く言うよう

にするのだ。

「スエスエスエスエスエ、せ」「ズエズエズエズエ、ぜ」という調子である。やがてこれが校内で有名になり、四年三組は「スエスエ学級」と言われるようになった。

ただし別段に悪いことでもないの、で、いつしか低学年の学級でも、協調して下さる先生もおられた。そして、「もう半分の子供がシエからせに直りましたよ」と、嬉しそうに教えて下さることも。ただ引つ掛かりマン掛かりする子も少なくなく、「スエンスエイ、スエンて書く時にや一にズエロば三つ付けんばんとれすか」などと、涙ぐましい努力も。

かくて一学期が終わるころには、曲がりなりにも、まともなに近い発音ができるようになった。そうすると

思わぬ副産物もでてきたと見え、ほとんどの子供たちが朗読が好きになり「蚊の鳴く」ような声しか出さなかった者までもが、しつかりとした声で音読が。

○

まあこんな調子で五年生まで持ち上がり、私は球磨村一勝地第二小学校に転勤。さらに十年ばかり経ったある日、人吉市の田野分校で授業をしていると、村のスピーカーが「八代から電話ですよ」と。いそいで駆け付けると、「シエツシェー金剛小学校でお世話になった小林れす」「なんかイモヤイの彦ちゃん、珍らつさや」

「シエツシェー、おろん達と別れて十五年目に同級会はするばい。そんな時やお前達が二十五になつとつて、もう焼酎も存分飲まるつて、て言いなつ

たですどう。そつて、今度の日曜日にみんな待つとりますけ、ぜひ出て来て下さい。宿もちゃんとしてあります」。

○

なんとという嬉しい報せであろう。まだ開通したてで舗装もしてない球磨川沿岸道路を走り、会場に着くやいなや総出で迎えてくれ、「シエツシェーやあつて、ふさしかぶつでした。早う上がつてくんなんつシエ、みんなが待つとりますけ。おなご共早よう案内シエろ」「あらおつこいしょー、シエツシェーおろん達と一ちよん変わらつさんとジエ」ときた。

聞けばこの初同級会は、四年生と五年生のころに私が「級長」を命じていた小林俊彦・田口真一・藤本繁成君たちが「別れて十五年目の約束」をちゃんと覚えていて企画し、可

能な限りに呼び掛け、そして今日の会を迎えたのだという。男女共にそれこそ見違えるほどに成長し、その話の内容も頼もしかった。

○

ところがおつこいしょー。よか気色になりながらも注意して聞いていると、だれ一人として「せんせい」と言う者はなく、みんながみんな「シエツシェー」ではないか。さらに「何年か前から、イ草は始めましたもね。仕事アそーんきつうはありますとあつて、そーにやジエンにやりますとですけ」である。

しかし中には往時を思い出したのか、「スエンスエイ今日は存分飲でくつだつシェー」「いつか『少年クラブ』ちゅう雑誌で見たとですあつて、スエンスエイの組じやスエッキ（石器）ばよん

によばかり集めとらすて書いてありました。おろんたちも、いつかそつば見せてもらいぎや行こたつれす」などと。

正直なところ、私は一瞬ではあったが、いささかの虚しさを覚えずにはおれなかった。自分も子供たちも、あんなに一生懸命になつて習得した「せ」や「ぜ」が、十五年の間にすっかり雲散霧消していたのである。一体あの努力は何であつたのだろう。そしてなぜ、跡形もなく消え失せてしまったのだろうか。

○

こうした疑問への答えを得るには、やはり方言を根本から学び直すことである。それからタバコをやめて（酒までやめたら「強飲免許状」が剥奪される恐れがあるので、そつちは我慢

し）そのテの本を買い、またヒマを見付けては図書館に通つた。お陰で、シエやジエなどといった発音は、不知火海から有明海沿岸の広大な地域に分布することを知つた。

そこで金剛小学校の子供たちが使つていた「シエツシェー」や「ジエン」、その根拠はもつと広大なもので、大げさに言えば、この地方の言語文化の一つでもあつたのである。

現に子供たちが学校では「せ」「ぜ」と発音し（させられ）ても、家に戻ればじいさんばあさんから両親兄弟までが、みんなそうした発音は「シエンジエン」しないのである。さらに学校を卒業し社会に出ても同じこと。

そうした事情も知らず、自分が奇異に感じたというばかりで、無理遣りその矯正に取り掛かつた浅はかさ

は、何とも申し訳のないことどころか、罪作りであつたのかもしれない。

ちなみに、わが国で方言を国語の邪道のように考えるようになったのは、「まいらシエツシェ」の発想と同じであつた。明治になつて「標準語」を作り、学校で普及をさせようとした。ところが子供がなかなか覚えてくれな。そこで当時の先生が考えたのは、方言があつて邪魔をするからだ。そこで方言撲滅運動が始まり、今日に至るまで方言はイヤしいことば、人前では使つてはいけな言葉などという蔑視や軽視の觀念が定着したのだ。

幸いなことに初任地での子供たちは、やがてシエもジエも取り戻し、至つて仲が良く、今でも師弟の交流は依然として続いている。

【まえた・かずひろ。人吉市】

昭和二十三年元旦に父が記した遺稿 ①

片岡和紘

私の父・鶴田實は、昭和四十四（1969）年に五十九歳で亡くなった。父の葬儀が終わった後、仏壇の下を整理していたら父が少年時代から記していた日記帳、通信簿などが沢山出て来た。私はそれらの一部を形見にと思い、母の許可を得て私の居住地である愛知県に持ち帰り、段ボール箱に詰めたまま四十六年間、一度も開封しなかった。

今年の二月、テレビを見ていたら太平洋戦争の終戦時、当時の朝鮮の開城^{けいせん}付近に住んでいた人の戦争体験談を放映していた。見ると終戦時、ソ連兵が怒濤のごとく侵攻して来て、次々と民間の住宅を襲い、マンドリン機関銃を突きつけて金品を要求し、婦女子を強姦。少しでも抵抗すると機関銃を雨あられのように乱射し、殺戮したと涙ながらに語っていた。

その放送を見て私は、すっかり忘れていた父の遺稿を思い出し、ほこりを被った段ボール箱を開いて遺稿を取り出した。すると日記帳の中から、当時の広告紙の裏側に青インクでびっしり書き込まれた数十枚の手記が出て来た。それは父が兵隊の時に所属した朝鮮の陸軍航空隊水原^{スワン}基地にかかわること、復員してからの貧窮生活、家族の永遠の旅立ち、農地解放、精神科医とマルクス主義及び日本共産党などのことが記されていた。しかも、絶対に他人の目に触れることのないようにと念押ししてあった。何故、昭和二十三年の元旦にこのようなことを書いたのか分からないが、遺書のつもりだったのかも知れない。マラリアを患っていたし、そう長く生きられないと思っていたことは間違いない。

広告紙は当時の免田町（現あさぎり町免田）の商店街に

在った商店のもので、「丸木屋」「熊本屋洋品店」「白石薬局」などがある。父の遺稿の中には、部外の人を読んで参考になるのではないかと思われるものもあるので、せめて「月刊くまがわ春秋」の読者の皆さんにも呼んで頂きたいと紹介することにした。中には不快感を与えるものもあるかもしれないが、父の性格からして悪意はなかったと思うのでお許し願いたい。以下はほとんど原文のままである。

一 昭和二十三年元旦の日

軍隊時の慣れで午前六時に起床する。軍隊勤務なら教練場に駆け足集合し、一斉点呼を受け、次に体操があった。つるべで顔を洗って新年の白髪岳を拝む。白髪岳は昨年の十一月から雪を被っている。薄い陽光を受けて輝いて見える。それから玄関に日の丸を掲げた。

昨年の元旦は体調が芳しくなかったので自宅から一歩も出なかったが、今年は久方振りに白髪神社に参拝しようと思ひ、復員時に着用していた陸軍の上下の制服、略帽、馬

皮で造られた長靴、それにマントを着て徒歩で自宅を出る。参拝行き帰りの村人と出会う。男も女も着物姿で下駄履きか草履ばきだ。軍隊帰りの連中とも行き会ったが、いずれも陸軍か海軍の制服を着用していた。神社は大勢の参拝客だった。戦前は弟の春見や弘見、信一、正義と連れ立って参拝に来たものだった。そう思うとまた目が潤む。

帰りの道沿いの家々には必ず門松と日の丸が掲げてあり、元旦だという気がした。上村小学校のところから市房山の真白な姿が見えた。八時過ぎに家に着いた。今年の元旦は生きているはずの母、春見、フミ、ミホ、正義、信一が居なくて寂しい。皆が地炉に坐って元旦の食事を食べた。元旦といつても元旦らしいご馳走などひとつも無い。屑米に粟をいれて炊いた飯、雑煮、年末に漬けた沢庵、干し味噌だけだ。

そんな中で今年一歳二月の三女典子が、訳の分からぬ言葉ではしゃいでいる。亡くなったフミやミホに良く似ている。暗くなりがちな我が家に光を与えてくれる太陽だ。和典は朝食が終わると元旦の式典の為、霜柱が立つ道路を歩いて小学校へ出かけて行った。

十一時過ぎに黒田の正義と井上静子、露子さん母子が年始の挨拶にやって来た。昨日、白菜や里芋、漬け物を売った金で買って来た酢蛸、酢鯖、辛子蓮根、オバ鯨、里芋の煮しめがご馳走に出る。私が昨日、免田の白石薬局で貰ったお屠蘇と、松岡で三二さんから貰った肥後の赤酒をお猪口一杯ずつ呑んでもらった。出したご馳走には誰も手をつけない。ご馳走は待っている家族の為に持ち帰るのだ。三人とも三時過ぎに帰って行ったが、井上静子姉に餅を持たせた。

井上の家も苦しい暮らしだ。露子の妹達が腹を空かせて待っているだろう。

裏の県道を酔っ払いが大声を出して通って行った。かくして元旦の一日は夕刻を迎えた。充実した一日だった。今年こそ家族揃って健康な一年を過ごしたい。そして、せめて食べることには不自由しない一年を過ごしたいと心から願う。

【かたおか・かずひろ。旧上村出身、愛知県】

東京オリンピック①

ピクトグラム



菊田吉富

近代オリンピックは1892年にクーベルタンがギリシャ政府の後援を受け1896年（明治28年）に、古代オリンピックが開催されていたといわれて

いるアテネで開催され、マラソンで地元ギリシャのルイスが優勝し二躍ギリシャのヒーローとなりました。

第2回大会はパリにおいて万国博覧会の付属大会として開催されています。

第3回もセントルイスにおいて万国博覧会の付属大会として開催されています。

第4回ロンドン大会からは、万国博覧会から独立しオリンピックへの参加が

各国のオリンピック委員会を通して行われるようになり、イギリスとアメリカ選手間の不和に対して、「勝つことより、参加することに意義がある」という言葉が生まれました。

1912年の第5回ストックホルム大会からは日本も参加しますが、競技の結果は外国人選手との体格差を痛感させるもので、7年前の日露戦争での白兵戦の結果でもこのことは指摘されていました。

たが、当時の日本政府は赤痢やコレラといった衛生管理で手一杯の状態であり、徴兵検査において身長152センチ以上の甲種合格は10人に1人か2人が実情で、彼らは激戦の南方に派遣され乙種・丙種は中国に派兵されたそうです。

義務教育での給食の栄養管理や体育授業といった国民の体力増強政策は昭和39年の東京オリンピック以降となります。

この結果日本人の平均身長は男子においては170センチ強、体重60キロを超え、女子は160センチ弱、体重50キロと著しい成長を遂げています。

またこの年から小・中学校にはプールが設置され、バスケット部といったクラブ活動の充実が図られたと記憶しています。

近代オリンピック・パラリンピックは世界中から選手や観客が多数集まるために、開催することが世界の一流国であ

るとの証明になり、その結果がその国の信用となるために過去の開催国がそうであったように、今回は国際化と共生社会の実現に向けて国と東京都をあげてのイベントとなっています。

これは東京をシンガポールやドバイといった都市に負けない金融シティとなる条件を備えていることの証明となります。

まずピクトグラム、これは陸上競技や球技・水泳といった競技会場や種目を解りやすく絵文字で表示するサインですが、同時にトイレや非常出口といった施設の設備にも使われ、1964年の東京オリンピック、そして1970年の大阪国際博覧会で採用され、全国、そして世界に普及しました。

今回も道路標識や観光案内図の地図記号が東京のみならず全国で変貌するかもしれません。

現在の地図記号は明治時代に陸軍参

謀本部によって作成されたものであり、銀行は両替商が秤に使った分銅の形が由来であり、交番や警察は六尺棒、学校は漢字の文から、消防署は火消しが使っていた「さすまた」、税務署は珠算の玉の形であり、国土地理院は交番や郵便局ホテル・コンビニ・百貨店・銀行・駅といった18種類の記号について、外国人向けの地図記号を新たに作成して都内の観光地や競技施設周辺で配布するようです。

同じことは道路標識にもいえ、国交省と東京都は都内の観光地や競技会場周辺において外国人旅行者にもわかりやすい道路案内標識に変更する見込みです。

外国人旅行者が見てわかりやすい道路案内標識は、例えば現在は漢字の「昭和道り」のみですが、これが「15 Showa - dori Ave.」と15号線という路線番号と英語表記を併記して、解り

やすい道路標識に改善しようとしています。

住居表示板は政令指定都市においては京都市を除いてくまなく表示されており住所を探すのは簡単ですが、現状は銀座1丁目2-3という表示です。街区表示板ではローマ字併記が一般的となっていますが、簡単な地図を示すとより便利となります。

なお東京では皇居に近い方を1丁

目、2丁目と環状式に配置されており、銀座は東京駅に近いのが一丁目で、番地も皇居に向かって1番、2番となっているようです。

また、現在都内においては交通機関のアナウンスはまだまだ日本語と英語のみですが、ほとんどの施設において案内板は日本語、英語、中国語、ハンゲル文字で併記されています。

外国人が安心して住める都市東京、

このためにはシンガポールやドバイのような治安の良さ、清潔さ、便利さが求められます。

外国人や地方から上京した人でもピクトグラムとローマ字の案内板や住居表示によって目的の地まで迷うことなく到達できるでしょう。

【かりた・よしとむ。税理士・行政書士、千葉市】

復刻掲載

『字図で見る球磨の地名』

最近、地名が失われつつあるなか、その記録の必要性を感じた編集部では、地名の重要性を考えるきっかけになればと平成8年に弊

社より刊行された『字図で見る球磨の地名』を復刻掲載することにした。著者の上村重次氏の略歴は下記の通り。



上村重次（うえむら・しげじ）＝昭和2年宇土市生まれ。元熊本日日新聞社記者。この『字図で見る球磨の地名』のほかに『九州相良の寺院資料』『玉名の地名』などの著書がある。



復刻掲載

字図で見る球磨の地名 ① 上村重次

はじめに

地名には誰でも親しみを感ずるが、地名の意味や由来となると難解であるし、一般に知られている地名説話は余りにもコジツケが露骨であるため、耳をふさぎたくなる。そのような現実を知りながらあえて書きたくなったのは、地名研究者の間でも地名の原点ともいえる小字地名が軽んぜられ、論考に字図を示すという方法論さえ確立していない現状に黙っておれなくなったからである。

地名は何れともあれ土地区域の名称であつて、その区域の所有（占有）者が誰であるのかの表現である。自分の所有地か他人のものか、公有か共有地か、それだけのことをするのが地名の効用である。所有関係の区分を明確にしているのが字名地番で

あり、字図で明示される。

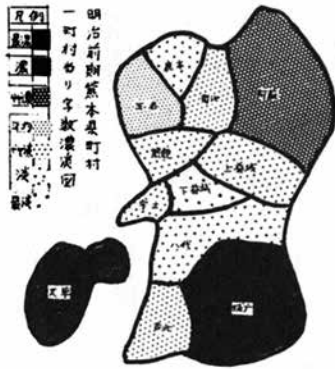
字図は切絵図とか字限図と呼ばれるように区域の境界を区切った図であり、切絵図の“切”は“限り”のことと理解される。○○辺とか××あたりでは地名としてはとらえようがなく、どこからどこまで、といった区切り、境界がなくては地名とは言えない。

このような見解に立つて球磨地域の地名を考えてみるのが、このシリーズのね

らいである。従来の地名伝承や用字に基づいた地名解釈から離れて、字図に従って近隣字名との関連を踏まえながら球磨地域の市町村字名を考えてみた、筆者自身が驚くように異説・珍説の展開になった。

明治前期の町村小字調査によると、熊本県の町村数1281、字名4万3143、一町村平均字名数33.67であるのに対し、球磨郡は42町村、4135字名で、一町村平均字名数98.45と県平均の三倍になっている。これは球磨地域、すなわち相良氏領内で早くから町村の広域化が行われていたこと

明治前期・熊本県町村一町村当たり字数濃淡図



明治前期・熊本県町村字数郡別分布表

郡名	町村数	字数	1町村平均字数
玉名	172	5290	30.63
鹿本	113	2338	22.46
菊池	109	2991	27.44
阿蘇	124	5173	41.73
荒飽	146	3594	24.61
上益城	137	3564	24.55
下益城	132	2468	20.96
宇土	51	1325	24.55
八代	79	1882	25.82
芦北	85	2312	27.20
球磨	42	4135	98.45
天草	88	7789	88.51
計	1281	43143	
平均	106	3598	33.67

を示すとともに、現状は町村・大字界ではないにもかかわらず、ムラ境を表現する境界地名を各地に残すことになっている。字名は境界地名の原点であるから、とくにこの点に留意しながら考察をすすめた。

執筆に当たっては主として次の文献、資料によった。

▽字図―関係市町村字図を基に作成した▽明治前期熊本県町村字名分類索引（上村重次編、熊本地名研究会刊、平成元年）▽日本地名索引（国立科学博物館・金井弘夫編、アボック社刊、1981年）▽大和地名大辞典（大和地名研究所編・刊、昭和27年）▽日本方言大辞典（小学館刊、1989年）▽地名の研究（柳田国男、角川書店、昭和43年）その他は本文にカッコ書きで明記した。

箕意之原（ミココロノハラ）

―山江村―

人吉市の「願成寺文書」（『熊本県史料』中世篇第三）の中に沙彌蓮佛―相良長頼―寄進状があつて、箕意之原と梨原（なしのきはら）という地名が登場する。

梨原は人吉市の旧大村字上・下梨原（ナシノキハル）があり、現行字名は大字高野字上・下梨木原（ナシキハラ）となつてゐるが、字図でみると願成寺と近接しているところから、蓮佛寄進の梨原は現存字名の上・下梨木原のことであらう。

ところが、箕意之原については同じ標記の地名が球磨地方には現存せず、文字面からの追求では箕意之原の地域を判定するのは不可能である。梨原の地名は寄進状記載の標記のままの姿で現存しているにもかかわらず、箕意之原だけが幻の地名となつてゐるのは何故で

あらうか。ナゾ解きの原点に立つて寄進状を検討してみる。

沙彌蓮佛相良長頼寄進状

寄進

願成寺為掃治 箕意之原並梨原荒野事 右件荒野、為寺掃治、且常々荒野也、停止地頭領家万難公事、可随彼

寺開発、仍為後々生来之證文、所

寄進

文如件

仁治元年庚子十月廿一日

地頭沙彌蓮佛

この寄進状は平仮名書きの案文を伴つていて、箕意之原は「みこころのはら」と読み、当時は荒廃した原野になつてゐたのを願成寺の営繕費用に充てるために寄進されたことが知られる。為掃治」という用語と「箕意之原」という地名標記に注目しながら思索してゐるうちに、「箕意之原」を「ミイノハル」ミノハルと読んでみたところ、願成寺の近く

に山江村大字山田乙字蓑原（ミノバル）が現存することに気が付いた。

関係町村字図を合成してみると、蓑原は現行字図では東・西・南・北の四字名に分かれてゐるが、山田甲、相良



村大字深水、柳瀬、人吉市旧大村と接する境域の地名であり、人吉市側の字名は境松（サカイマツ）および寺尾（テラヲ）である。境松は境界松にちなむ地名であることは明白であるが、寺尾

は寺崎・寺先と同書であらうと考えられるものの、近くには寺はないので「願成寺の先」の意と想定される。

箕は穀物のカラと実を分ける農具の名称であるが、チリ取りの意もある。また二十八宿の一、東北方を示す語でもある。掃治（除）は箒・塵取（箕）で別称されるし、願成寺の東北方にある荒野を蓑原と仮定すれば、箕意之原と蓑原は同じ地名ということになる。木ノ国が紀伊ノ国と標記されたように、蓑原は箕意之原（ミイノハル）と書かれ、「みこころのはら」は雅称と推理する。

（注）仁和元年は1240年

身ノ平（ミノヒラ）

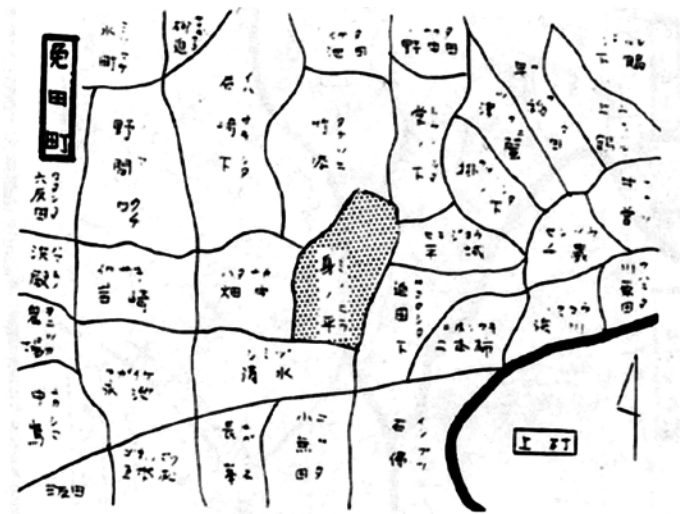
―免田町―

前項で箕意之原は蓑原のことと推理したが、「箕と蓑はモノが違う」として異論が多いだらう。ところが「ミノ地名」に宛てられる漢字は多様であり、球磨地方の市町村小字でみると、山江村の蓑原の他に次のようにある。

・多良木町黒肥地字蓑迫（ミノサコ）・同蓑田（ミノダ）・相良村柳瀬字蓑毛（ミノモ）・錦町西字蓑毛田（ミノモダ）・免田町字身ノ平（ミノヒラ）・相良村川辺字実（ミノリ）―人吉市蓑野町（ミノノ）は昭和十七年の成立―

『日本地名索引』は見野、美濃、美野、三野、三納、箕、見能、水縄、実、南などをミノと読ませる地名を多数あげてゐる。岐阜県南部の旧美濃国は三野・御野・美乃・三乃などと書かれていたが律令制によつて美濃に改定された

『日本地名ルーツ辞典』もので、それぞれの当て字に基づいて三つの野、朝廷の禁野、野の美称というように地名語源説は多様である。



福岡県浮羽郡と八女郡の郡境に連なる耳納山地（ミノウさんち）については①神功皇后が連れてきた新羅人の耳を納めた②安部貞任の末子がこの地に來て反旗をひるがえしたので「貞任は敗死したぞ」と言つて証拠として貞任の耳を届け、その耳を山に埋納した、などの山名由来説が伝えられる（『福岡県百科辞典』）。

耳納山地は水縄山地とも書かれる。明治二十二年の町村制施行の際、耳納山地中央部の北にあった森部・石垣・益生田の三村が合併して水縄村（ミノウむら）となり、昭和二十九年に田主丸町の一部となるまで水縄の村名は続いた。

三カ村合併にちなんで三村協和の願いをこめて三縄↓水縄の発想になったのか、古くから耳納が水縄と理解されていたのかはわからない。普通名詞の水縄（みずな

わ↓みのう）は基準線を出すための道具として古くから用いられてきた。その用語が地名に転用されたのは、区域の基準、すなわち境界線の表現と考えられる。

旧筑前・筑後の国境域にある連山が耳納山地と呼ばれたのは「水縄山地」に原意があるように思われる。和歌山・奈良県境の高野竜神国定公園の箕峠（ミノトウゲ・923m）はまさに「水縄峠」と同意と言えよう。

箕意之原の原地名と推定した山江村の蓑原が村境地にあるのも、箕、蓑、耳納・水縄が同義であることの裏付けとなろう。

免田町の身ノ平は「水縄のへり」の意で、現況は町村界ではないものの、古くは村境の辺（へら↓ひら↓平）だったのであろう。美濃部、身延（ミノノベ）も同意地名と言えよう。

※次号は人吉市「駒井田」の由来に迫ります。

情報ピックアップ

5月21日ツクシイバラウォークの参加者募集

あさぎり町から錦町木上にかけての球磨川河畔（左岸）を歩きながら、ツクシイバラの可憐な花を楽しむウォーキング大会が5月21日、くま川鉄道おかどめ幸福駅発着のコースであり、現在参加者を募集している。

当日は、おかどめ幸福駅前で午前8時半から受け付け、同9時半に出発するが、主催者はくま川鉄道を利用しての参加を求めている。参加費は昼食、記念品、保険料を含めて小学生以上1500円、幼

児は保険料のみの2000円で、先着100人で締め切る。問い合わせは、実行委員会事務局のNPO法人あすなりネットワークの遠山さん（☎0966・45・5777）まで。

天草の歴史と環境を学ぶ

6月5日の流域圏学会

森・川・海のつながりを流域圏として捉え、さまざまな分野での研究を目的とする「不知火海・球磨川流域圏学会」の平成28年度の研究発表会が6月5日（日）午後1時より、上天草市大矢野町の熊本県水

▼4月5日～4月17日

「二科会巡回展 熊本」（熊本県立美術館分館）絵画で入選した人吉市の堀田英雄さんの「時間は全て消して」が展示されるほか、昨年9月8日に亡くなった西峯多木次さんの絵も追悼展示される。

▼4月13日～5月8日

「相良700年の遺産 郷土の石塔拓本展」（人吉クラフトパーク石野公園展示室）人吉球磨地方に残る石塔や庚申塔、墓碑など益田啓三さんと溝下昌美さんの拓本コレクション約60点を展示する。

産研究センターの研究室で開かれる。

今回は天草文化協会会長の平井建治さんの「天草概史」群都が福岡から本渡へ」と題する基調講演があり、会員の高橋徹さんによる「淡水産アオコ毒素ミクロシスチンによる海域の汚染」、天草市立御所浦白亜紀資料館学芸員の廣瀬浩司さんによる「天草御所

浦の化石と地質」、熊本里海作り協会の城本祐助さんによる「くまもと里海作り協会の活動」などの研究発表がある他、ポスター発表もある。

同会では一般の参加を広く呼びかけており、当日会場にて新規入会手続きも受け付けている。問い合わせは同事務局 ☎0964・26・2003 の佐藤さんまで。

「定期購読」のご案内

月額 500 円にて毎月発送、お支払いは同封する郵便局の振替用紙を利用していただくほか、「肥後銀行」と「ゆうちょ」の口座引落しもございます。

〒868—0086

熊本県人吉市下原田町瓜生田675—3

人吉中央出版社「くまがわ春秋」

☎0966・23・2580 FAX 0966・22・7601

office@hitoyoshi.co.jp

次号予告

子ども特集「むかしの遊び、いまの遊び」

編集後記

故・東儀一郎さんの写真に読者は驚かれたであろう。写真の存在は早くから知っていたが、内容を整理する余裕がなく公開できなかった。記録を死蔵・風化させるわけにいかないので、その一部を掲載した。山下清画伯の写真は数枚ある。次号を楽しみにしていただきたい。★編集作業は楽しかった。「源流水りレ」、「定吉が行く」、「限界集落便り」など、これまでなかったような記事を掲載できた。球磨川流域はまさに人材の宝庫であると感じて知った。編集者として、これほど、うれしいことはない。★元の地名が忘れられようとしている。そこで上村重次先生の『字図で見る球磨の地名』（弊社出版）を資料として掲載した。本誌でしかできない措置で、少しばかり自負している。★平成9年9月9日に「週刊ひとよし」は刊行された。それに倣い、本誌も4月9日に刊行した。「四苦八苦」しそうな日だったが、苦勞しなければ良い月刊誌にならないだろうとの自戒の意味もそれに含めた。

月刊くまがわ春秋創刊号

2016年4月9日発行

企画・人吉球磨総合研究会 発行・人吉中央出版社

熊本県人吉市下原田町瓜生田675—3 〒8680086

☎0966・23・2580 FAX 0966・22・7601

office@hitoyoshi.co.jp <http://www.hitoyoshi.co.jp/>

印刷・製本 人吉中央出版社（担当／松本学）

定価 500円＋税

くまがわインフォメーション（4月の主な行事）

【4月11日（日）】

▽人吉球磨地域の小中学校入学式

▽二科展「熊本巡回展」（県立美術館分館、～17日）

【13日（水）】

▽相良700年の遺産郷土の石塔拓本展（～5月8日、人吉クラフトパーク石野公園展示室）

【15日（金）】

▽特別展覧会「京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展」（八代市立博物館、～6月5日）

▽いちご杯九州ヘラブナ釣り大会in氷川（氷川町不知火干拓貯水池）

▽牛深ハイヤ祭り（天草市牛深町、～17日）

【17日（日）】

▽やまえつつじ祭り（山江村丸岡公園）

▽阿吖の会「墓地清掃」（人吉市田町了清院跡）

【21日（木）】

▽市房山山開き（水上村湯山）

▽求麻郷土研4月例会「あさぎり町（上地区・岡原地区）文化財調査」

【22日（金）】

▽第17回「黄玄会展」（～25日、人吉市イスミ本店地下イベントホール）

【24日（日）】

▽東北支援 祈り…追悼チャリティin人吉球磨（人吉市カルチャーパレス）

▽おどんな日本一 高校生弓道大会（人吉市弓道場）

【29日（金）】昭和の日

▽急流と鍾乳洞の里まつり（球磨村球泉洞一帯）

▽湯前潮おっぱい祭り（湯前町グリーンパレス広場など）

▽天草西海岸陶器市春の窯元めぐり（苓北町及び天草市天草町、～5月8日）

【30日（土）】

▽日本百名城人吉お城まつり（～5月1日、人吉城跡ふるさと歴史の広場及び九日町通り）

【5月8日（日）】

▽五木のふるさと新緑祭り（五木村子守唄公園）

※この欄への情報提供をお待ちしております。